

科目名	Basic Keyboard 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田隆志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのライブ、レコーディングにキーボーディストとして参加。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	基礎練習とキーボードの使用法を理解できる	基礎練習とキーボードの使用法を実演する
2		演習	基本のコードとコードネームを理解できる	基本のコードとコードネームを理解し実演する
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解できる	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実演する
4		演習	コード進行を理解し演奏できる	コード進行を理解し実演を録音する
5		演習	ペントニック、リフを理解できる	ペントニック、リフを実演できる
6		演習	Bluesについて理解できる	Bluesについて理解し実演する
7		演習	メジャースケールとダイアトニックコード1を理解できる	メジャースケールとダイアトニックコード1を復習し実演する
8		演習	メジャースケールとダイアトニックコード2を理解できる	メジャースケールとダイアトニックコード2を復習し実演する
9		演習	マイナースケールを理解できる	マイナースケールを理解し実演する
10		演習	Bossa Nova Dm7-G7 を理解できる	Bossa Nova Dm7-G7 を理解し実演する
11		演習	Blues Em riffのコードを理解できる	Blues Em riffを理解し実演する
12		演習	Blues Em riffのスケールを構築できる	Blues Em riffを理解し即興できる
13		演習	ストリングスを使って演奏する。	音色の整理を行いサウンドをつくる
14		演習	オルガンを使って演奏する。	音色の理解を深めサウンドをつくる
15		演習	試験と復習	1~14をまとめたレポート作成
準備学習 時間外学習			音楽理論全般を理解するための学習、演習の復習を繰り返す。週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Basic Keyboard 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田隆志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部ー	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのライブ、レコーディングにキーボーディストとして参加。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	シールドなど機材での音の変化を理解し実践できる	シールドなど機材での音の変化を理解し実演する
2		演習	コードの展開を理解し実践できる	コードの展開を理解し実演する
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実践できる	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実演する
4		演習	2つ以上組み合わせる音色を理解し実践できる	2つ以上組み合わせる音色を理解し実演する
5		演習	ペンタトニック、オブリガートを理解し実践できる	ペンタトニック、オブリガートを理解し実演する
6		演習	Bluesを理解し実践できる	Bluesを理解し実演する
7		演習	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し実践できる	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し実演する
8		演習	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し実践できる	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し実演する
9		演習	ソロの構成を理解し実践できる	ソロの構成を理解し実演する
10		演習	各ジャンルでのバックングを理解し実践できる	各ジャンルでのバックングを理解し実演する
11		演習	各ジャンルでのriffを理解し実践できる	各ジャンルでのriffを理解し実演する
12		演習	ピッチバンドを使用したソロを理解し実践できる	ピッチバンドを使用したソロを理解し実演する
13		演習	エフェクト紹介1を理解し実践できる	エフェクト紹介1を理解し実演する
14		演習	エフェクト紹介2を理解し実践できる	エフェクト紹介2を理解し実演する
15		演習	試験と復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			音楽理論全般を理解するための学習、演習の復習を繰り返す。週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Jazz Dance 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ダンサーとして多くのアーティストサポートやCM,PVなどで活躍。						
授業の学習 内容	前期で行ったテクニックの練習を引き続き行う。 振りうつしをカウントで行い、振り覚えのスピードを上げる練習後、音楽に合わせて踊る。						
到達目標	基礎練習の積み重ねによって、しっかりとしたダンス能力を身につける。 プロの世界でも通用するような基礎となるダンススキル習得を目指す。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	アイソレーションを覚えて実践できる	アイソレーションを覚えて実践、動画でチェックする。
2		演習	身体の使い方を学び理解し実践できる	身体の使い方を学び理解し実践、動画でチェックする。
3		演習	アームスの正しいポジションを学び理解し実践できる	アームスの正しいポジションを学び理解し実践、動画でチェックする。
4		演習	ストレッチのやり方を学び理解し実践できる	ストレッチのやり方を学び理解し実践、動画でチェックする。
5		演習	バレエポジションを学び理解し実践できる	バレエポジションを学び理解し実践、動画でチェックする。
6		演習	身体の軸の作り方を学び理解し実践できる	身体の軸の作り方を学び理解し実践、動画でチェックする。
7		演習	様々なターンを学び理解し実践できる	様々なターンを学び理解し実践、動画でチェックする。
8		演習	ターンを学び理解し実践できる	ターンを学び理解し実践、動画でチェックする。
9		演習	様々なジャンプを学び理解し実践できる	様々なジャンプを学び理解し実践、動画でチェックする。
10		演習	ジャンプを学び理解し実践できる	ジャンプを学び理解し実践、動画でチェックする。
11		演習	ターンとジャンプの組み合わせを学び理解し実践できる	ターンとジャンプの組み合わせを学び理解し実践、動画でチェックする。
12		演習	クロスフロアを学び理解し実践できる	クロスフロアを学び理解し実践、動画でチェックする。
13		演習	ストレッチのやり方を学び理解し実践できる	ストレッチのやり方を学び理解し実践、動画でチェックする。
14		演習	バレエポジションを学び理解し実践できる	バレエポジションを学び理解し実践、動画でチェックする。
15		演習	試験	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なサンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Jazz Dance 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ダンサーとして多くのアーティストサポートやCM,PVなどで活躍。						
授業の学習 内容	前期で行ったテクニックの練習を引き続き行う。 振りうつしをカウントで行い、振り覚えのスピードを上げる練習後、音楽に合わせて踊る。						
到達目標	リズムをしっかりと感じ、個性豊かな創造性を身につける。 プロの世界でも通用するようなダンススキルを習得できることを 目的とする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	アイソレーションを学び理解し実践できる	アイソレーションを学び理解し実践、動画でチェックする。
2		講義・演習	テクニックを学び理解し実践できる	テクニックを学び理解し実践、動画でチェックする。
3		講義・演習	ターン、ジャンプを学び理解し実践できる	ターン、ジャンプを学び理解し実践、動画でチェックする。
4		講義・演習	振り付けを学び理解し実践できる	振り付けを学び理解し実践、動画でチェックする。
5		講義・演習	振りの中でのテクニックの応用を学び理解し実践できる	振りの中でのテクニックの応用を学び理解し実践、動画でチェックする。
6		講義・演習	振りの中での表現力を学び理解し実践できる	振りの中での表現力を学び理解し実践、動画でチェックする。
7		講義・演習	振り覚えのスピードを学び理解し実践できる	振り覚えのスピードを学び理解し実践、動画でチェックする。
8		講義・演習	振りの中での表情を学び理解し実践できる	振りの中での表情を学び理解し実践、動画でチェックする。
9		講義・演習	より高度な振りを学び理解し実践できる	より高度な振りを学び理解し実践、動画でチェックする。
10		講義・演習	舞台などでの魅せ方を学び理解し実践できる	舞台などでの魅せ方を学び理解し実践、動画でチェックする。
11		講義・演習	テクニックの向上練習を学び理解し実践できる	テクニックの向上練習を学び理解し実践、動画でチェックする。
12		講義・演習	集中力の作り方を学び理解し実践できる	集中力の作り方を学び理解し実践、動画でチェックする。
13		講義・演習	オーディションでのメンタルを学び理解し実践できる	オーディションでのメンタルを学び理解し実践、動画でチェックする。
14		講義・演習	集中力の作り方を学び理解し実践できる	集中力の作り方を学び理解し実践、動画でチェックする。
15		講義・演習	試験	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			常に自分が目指すための舞台観劇をする。ネットなどでのオーディション情報をチェックする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Vocal Performance 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野 恭 平
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	ダンス&ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Vocal Performance 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野 恭 平
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	ダンス&ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Hip Hop Dance 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	木本 雄
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	HIP-HOPダンサーとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	ダンサーにとって必要な身体作り、street dance 特にPOPPIN DANCEに必要メソッドの習得、 またソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	Poppinはstreet danceだけではなくjazzやコンテンポラリーにも多く取り入れられているので幅の広いダンステクニクを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ヒットを学び実践できる	ヒットを学び実践、確認動画でチェックする。
2		演習	ヒットを学び実践できる	ヒットを学び実践確認動画でチェックする。
3		演習	インプロを学び実践できる	インプロを学び実践確認動画でチェックする。
4		演習	タイムストップを学び実践できる	タイムストップを学び実践確認動画でチェックする。
5		演習	タイムストップを学び実践できる	タイムストップを学び実践確認動画でチェックする。
6		演習	ハンドウェーブを学び実践できる	ハンドウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
7		演習	ハンドウェーブを学び実践できる	ハンドウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
8		演習	ボディウェーブを学び実践できる	ボディウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
9		演習	ボディウェーブを学び実践できる	ボディウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
10		演習	アニメーションを学び実践できる	アニメーションを学び実践確認動画でチェックする。
11		演習	アニメーションを学び実践できる	アニメーションを学び実践確認動画でチェックする。
12		演習	インプロを学び実践できる	インプロを学び実践確認動画でチェックする。
13		演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	振付けられた振りとインプロが実践確認動画でチェックする。
14		演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	振付けられた振りとインプロが実践確認動画でチェックする。
15		演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なダンスのスキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Hip Hop Dance 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	木本 雄
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	HIP-HOPダンサーとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	ダンサーにとって必要な身体作り、street dance 特にPOPPIN DANCEIに必要なメソッドの習得、 またソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	Poppinはstreet danceだけではなくjazzやコンテンポラリーにも多く取り入れられているので幅の広いダンステクニックを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	キングコブラを学び実践できる	キングコブラを学び実践、確認動画でチェックする。
2		演習	キングコブラを学び実践できる	キングコブラを学び実践、確認動画でチェックする。
3		演習	ティックングを学び実践できる	ティックングを学び実践、確認動画でチェックする。
4		演習	ティックングを学び実践できる	ティックングを学び実践、確認動画でチェックする。
5		演習	フローティングを学び実践できる	フローティングを学び実践、確認動画でチェックする。
6		演習	フローティングを学び実践できる	フローティングを学び実践、確認動画でチェックする。
7		演習	ブガルーリズムを学び実践できる	ブガルーリズムを学び実践、確認動画でチェックする。
8		演習	ブガルーリズムを学び実践できる	ブガルーリズムを学び実践、確認動画でチェックする。
9		演習	ブガルーステップを学び実践できる	ブガルーステップを学び実践、確認動画でチェックする。
10		演習	ブガルーステップを学び実践できる	ブガルーステップを学び実践、確認動画でチェックする。
11		演習	インプロを学び実践できる	インプロを学び実践、確認動画でチェックする。
12		演習	インプロを学び実践できる	インプロを学び実践、確認動画でチェックする。
13		演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	振付けられた振りとインプロが実践、確認動画でチェックする。
14		演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	振付けられた振りとインプロが実践、確認動画でチェックする。
15		演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なダンスのスキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble 1	必修 選択	1	担当教員 城石 真臣 遠藤 敬三 小寺 良太 織原 洋子
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間部一	授業 形態	60 4	
教員の略歴				
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアンライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。			
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。			
評価方法と基準	実技による採点100%			

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践する。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践する。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践する。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践する。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコーペーションについて、課題曲を通して理解する。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践する。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	ボサノバの基本パターンをアンサンブルを通して習得する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
14		演習	2～13週で習った課題曲をさらい、前期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
15		演習	実技テスト及び前期内容の復習	1～13をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	城石 真臣 遠藤 敬三 小寺 良太 織原 洋子
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
14		演習	2～13週で習った課題曲をさいり、前期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-1 (Vocal Training 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	崔 可咲 橋元 美沙 齊藤 早春 鈴木 さくら 吉田 華奈 長谷川 開 國末 慶宏
学科・コース	パフォーマンスアート科 屋間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していくには幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
15		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-1 (Gt harmonic concept 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス・ ジャーガン セン
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのコンサートギタリストとして活躍中						
授業の学習 内容	ギターを演奏する上での基礎～応用を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技、表現の基礎～応用的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	マイナーキーのダイアトニックコードトライアドについて理解。	マイナーセブンスのダイアトニックを自身で調べる	
2		演習	ブルーノートスケールの構造を理解し、そのフレーズを演奏出来る。	ペンタニックとブルーノートスケールの関係性を調べ 演奏できるようにする	
3		演習	ペンタニックスケールとブルーノートの関係性について	コードトーンに対してのベースラインを考え、譜面に起こしておく	
4		演習	様々なブルースのコード進行を理解し、演奏出来る。	ブルースのコード進行にブルーノートスケール ペンタニックスケールでベースラインを作成する	
5		演習	メジャー、ナチュラルマイナー、ペンタニック、 ブルーノートスケールのおさらい	試験に向けて課題曲の練習	
6		演習	課題曲に合わせメジャー、ナチュラルマイナー、ペンタニック、ブルーノート スケールを使ってベースラインを作成	12音階全てのメジャー・マイナーキーに 対応できるようにする	
7		演習	メジャーキーのモードスケールを理解し、全てのキーで演奏出来る。	リディアンスケール、ミクソリディアンスケール理論的解釈を深める 各スケールに1つずつフレーズ作成	
8		講義	メジャーキーのコード進行に対して、アルペジオとモードスケールを 設定し、演奏出来る。	課題曲にコードトーンのみでベースラインを作成しメジャーモードスケールと の関係性を理解。	
9		講義	分数コードの成り立ちを理解分数コードの機能を把握	分数コードが入っていないコード進行を実際に分数コードにしてみても自分 なりにアレンジを加えて採譜して講師に提出	
10		講義	ベースラインの成り立ちとアプローチノートについて理解し、 演奏出来る。	アプローチノートとモードスケールの関係性の理解を深める	
11		演習	クロマチックアプローチとその分析について理解し、実践できる。	コード進行に対してのベースラインとクロマチックの 関係性の理解を深める	
12		演習	マイナーキーのモードスケールを理解し、演奏出来る。	ドリアン、フリジアン、ロクリアンスケールの理論的解釈を深める 各スケールに1つずつフレーズ作成	
13		演習	マイナーキーのコード進行にアルペジオとスケールを設定し、 演奏出来る。	課題曲にコードトーンのみでベースラインを作成しマイナーモードスケールと の関係性を理解。	
14		講義	メジャー・マイナーモードスケール、クロマチックスケール、 アプローチノートのおさらい	試験に向けて課題曲の練習	
15		講義	課題曲に合わせメジャー・マイナーモードスケール、クロマチックスケール アプローチノートを使ってベースラインを作成	12音階全てのメジャー・マイナーモードスケールを弾けるようにする	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容の復習と教材の音源を使った練習をしっかりと行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression A-1 (Ba bassline concept 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤敬三
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ベーシストとして様々なアーティストをサポート。						
授業の学習 内容	将来的に豊かで独創的なベースラインを生み出せるように、コードやスケールなどの音楽理論を確実に耳と指板で理解し演奏できるようにするための講義実習を行う。						
到達目標	1、指板の構造とフレット上の音名を全て把握出来るようになること。 2、メジャースケールの構造を理解し、全てのキーで演奏出来るようになること。 3、コードの概念を理解し、構成音を把握しながら演奏出来るようになること。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	右手左手のフォームを確認し、スムーズで正しいフォームの演奏法を習得する。	現在の自分フォームとベースラインコンセプト教科書にて記載されている正しいフォームとの違いを理解する
2		講義・演習	譜面上の音楽記号、指板上全ポジションの音名の理解を深める。	全ポジションの音名を理解し演奏できるようにする
3		講義・演習	コードネームとコード進行について理解を深めルートのみで演奏する	コード進行のパターンを調べ音楽記号を使って採譜する。
4		講義・演習	弦の移動幅によつての度数や音程について、メジャースケールの構造について理解し、演奏出来る。	ベースラインコンセプト教科書にて書かれている8音階(C,D,E,F,G,A,B)でメジャースケールの演奏できるようにする
5		講義・演習	#keyのメジャースケールとその指板上の位置を把握し、演奏出来る。	全ての#key(C#,D#,F#,G#,A#)のメジャースケールを弾けるようにする
6		講義・演習	b keyのメジャースケールとその指板上の位置を把握し、演奏出来る。	全てのb key(D b, E b, G b, A b, B b)のメジャースケールを弾けるようにする
7		講義・演習	弾き始めの場所の重要性と各フレーズに対しての運指の理解する。	メジャースケールをトロノーム BPM60~120ま8分音符練習。
8		講義・演習	全てのメジャースケールが弾けるか、また配布した譜面の音楽記号を間違えずにルートだけで弾ききることができるかの演習する。	12音階全てのメジャースケールを弾けるようにする
9		講義・演習	メジャー、マイナーペンタトニックスケールについての理論的解釈する。	ベースラインコンセプト教科書に記載してあるメジャーペンタトニックスケールを演奏できるようにする
10		講義・演習	メジャー、マイナーペンタトニックスケールの5つのポジションを理解しフレーズを演奏出来るようになる	配布した資料のコード進行に対してメジャーペンタトニックスケールのベースラインを作成する
11		講義・演習	コードトライアドの構成音とメジャーキーのダイアトニックトライアドを理解し、演奏出来るようにする	Cダイアトニックトライアドを全て弾けるように復習構成音を理解すること
12		講義・演習	セブンスコードの構成音とメジャーキーのダイアトニック7セブンスコードを理解し、演奏出来るようにする	全てのキーのダイアトニックセブンスコードを演奏できるようにする
13		講義・演習	ナチュラルマイナースケールとメジャースケールの違いを理解する。Cナチュラルマイナースケールを演奏できるようにする	全keyのナチュラルマイナースケールを演奏できるようにする
14		講義・演習	ナチュラルマイナースケールの構造を理解し、フレーズを作成する。	配布した資料のコード進行に対してマイナーペンタトニックスケールのベースラインを作成する
15		講義・演習	全てのキーのナチュラルマイナー演奏できる。	12音階全てのナチュラルマイナーの復習
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-1 (Dr control Theory 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	星山哲也
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのコンサートドラマーとして活躍中						
授業の学習 内容	①ルーディメンツをドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。						
到達目標	それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールを身につけることで 本来の太鼓の音色を表現することや演奏したい音符の長さを演奏できることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	グリップ&フォーム、フィンガーコントロールを利用して演奏できる	グリップ&フォーム、フィンガーコントロールの復習
2		演習	フットワークを利用して演奏できる	フットワークを利用して実演してみる。
3		演習	アクセレーションコントロール16分音符、3種類ができる	アクセレーションコントロール16分音符、3種類の復習
4		演習	アクセレーションコントロール3連符、2種類ができる	アクセレーションコントロール3連符、2種類の復習
5		演習	ダブルストロークロールができる	ダブルストロークロールの復習
6		演習	5.7.9.11.13ストロークロールができる	5.7.9.11.13ストロークロールの復習
7		演習	バズ、バズ5、バズ7ができる	バズ、バズ5、バズ7の復習
8		演習	シングルパラディドルができる	シングルパラディドルの復習
9		演習	ダブルパラディドル、トリプルパラディドルができる	ダブルパラディドル、トリプルパラディドルの復習
10		演習	フラム、フラムアクセント16分&3連符を演奏できる	フラム、フラムアクセント16分&3連符の復習
11		演習	フラムパラディドルができる	フラムパラディドルの復習
12		演習	フラムタップ、ラタマキューができる	フラムタップ、ラタマキューの復習
13		演習	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズを組み立てることができる	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズの復習
14		演習	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズを組み立てる	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズの復習
15		演習	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズを組み立てる	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズの復習
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-1 (Key playing technique 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原洋子
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間部一						
教員の略歴							
授業の学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シンセサイザーを使用したサウンドメイク。 ・各音色に合わせた演奏法とフレーズメイキング。 ・譜面上に記載しているコードから演奏を広げるアレンジ方法。 ・1週目を講習、2週目を演習という授業の流れをルーティーンとする。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボード、シンセサイザーの特性と理解。 ・様々な音色を用いて、其々の音色を活かす演奏法の習得。 ・バンド形態、弾き語りのサポート等、あらゆる演奏形態に対応出来る奏法の習得。 						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講習、演習	教室内使用機材の説明。結線の説明。 ピアノ音色を使用する3コードブルース。 定番のバックイングフレーズとソロ。	Key=Aでバックイングパターンとソロを練習。	
2		演習	ピアノ音色を使用する3コードブルース。 定番のバックイングフレーズとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。	
3		講習、演習	オルガンを使用する16系Funk。バックイングパターンとソロ。	Key=Eでバックイングパターンとソロの練習。ワークシート。	
4		演習	オルガンを使用する16系Funk。バックイングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。	
5		講習、演習	Key=Gで1-6m-2m-5、6/8のバラード。 FM系エレビ音色を使用してバックイングパターンとソロ。	左記項目の練習。ワークシート。	
6		演習	Key=Gで1-6m-2m-5、6/8のバラード。 FM系エレビ音色を使用してバックイングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。	
7		テスト	当方の作成したテスト内容を元に中間テストとして実技試験。	1～6週で学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワークシート。	
8		講習、演習	Key=Dで1-4-3m-6 2m-3m-4-5進行。 Rhodes系エレビを使用したボサノヴァ。バックイングパターンとソロ。	ワークシート、左記項目の練習。	
9		演習	Key=Dで1-4-3m-6 2m-3m-4-5進行。 Rhodes系エレビを使用したボサノヴァ。バックイングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。	
10		講習、演習	Key=G(Em)で6m-2進行。クラヴィ音色を使用したSlow Funk。 バックイングパターンとソロ。	左記項目の練習。ワークシート。	
11		演習	Key=G(Em)で6m-2進行。クラヴィ音色を使用したSlow Funk。バックイングパター	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。	
12		講習、演習	Key=Cで1-5-b7-4 レゲエ。オルガンを使用したバックイングパターンとソロ。	左記項目の練習。ワークシート。	
13		演習	Key=Cで1-5-b7-4 レゲエ。オルガンを使用したバックイングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。	
14		演習	当方の作成したテスト内容を元に実技試験。	前期学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワークシート。	
15		講習、演習	前期の重要ポイントと復習	前期学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワークシート。	
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression A-2 (Vocal Training 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 崔 可嘆 橋元 美沙 齊藤 早春 鈴木 さくら 吉田 華奈 長谷川 開 國末 慶宏
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
15		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習 時間外学習		ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-2 (Gt harmonic concept 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田大志
学科・コース	パフォーマンスアーツ科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 ギターを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	シールドなど機材を復習する。	シールドなど機材を確認する。
2		演習	コードの展開を理解し演奏する。	コードの展開を研究し実演する。
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し演奏する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesし実演する。
4		演習	CAGEDシステムを理解し演奏する。	CAGEDシステムを理解復習する。
5		演習	ペントニック、オブリガートを理解し演奏する。	ペントニック、オブリガートを復習する。
6		演習	Bluesを理解し演奏する。	Bluesを復習する。
7		講義	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し演奏する。	メジャー、マイナー以外のスケール1を復習する。
8		講義	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し演奏する。	メジャー、マイナー以外のスケール2を復習する。
9		講義	ソロの構成を理解し演奏する。	ソロの構成を復習する。
10		演習	各ジャンルを理解し演奏する。	各ジャンルでのバックングを復習する。
11		演習	各ジャンルでのriffを理解し演奏する。	各ジャンルでのriffを復習する。
12		演習	チューニングを変えての演奏を理解し演奏する。	チューニングを変えての演奏を復習する。
13		講義	エフェクター紹介1を理解し演奏する。	エフェクター紹介1を復習する。
14		講義	エフェクター紹介2を理解し演奏する。	エフェクター紹介2を復習する。
15		演習	後期の重要ポイントと復習	後期の重要ポイントと復習を復習する。
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容の復習と教材の音源を使った練習をしっかりと行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-2 (Ba bassline concept 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤敬三
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ベーシストとして様々なアーティストをサポート。						
授業の学習 内容	将来的に豊かで独創的なベースラインを生み出せるように、コードやスケールなどの音楽理論を確実に耳と指板で理解し演奏できるようにするための講義実習を行う。						
到達目標	1、メジャースケール、マイナースケールとそのダイアトニックコードの構造を理解し、全てのキーで演奏出来るようになること。 2、ブルースのハーモニーとそのコード進行、フレージングを理解し、演奏出来るようになること。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	マイナーキーのダイアトニックコードトライアドについて理解。	マイナーセブンスのダイアトニックを自身で調べる
2		講義・演習	ブルーノートスケールの構造を理解し、そのフレージングを演奏出来る。	ペンタニックとブルーノートスケールの関係性を調べ演奏できるようにする
3		講義・演習	ペンタニックスケールとブルーノートの関係性について	コードトーンに対してのベースラインを考え、譜面に起こしておく
4		講義・演習	様々なブルースのコード進行を理解し、演奏出来る。	ブルースのコード進行にブルーノートスケール ペンタニックスケールでベースラインを作成する
5		講義・演習	メジャー、ナチュラルマイナー、ペンタニック、 ブルーノートスケールのおさらい	試験に向けて課題曲の練習
6		試験	課題曲に合わせメジャー、ナチュラルマイナー、ペンタニック、ブルーノート スケールを使ってベースラインを作成	12音階全てのメジャー・マイナーキーに 対応できるようにする
7		講義・演習	メジャーキーのモードスケールを理解し、全てのキーで演奏出来る。	リディアンスケール、ミクソリディアンスケール理論的解釈を深める 各スケールに1つずつフレーズ作成
8		講義・演習	メジャーキーのコード進行に対して、アルペジオとモードスケールを 設定し、演奏出来る。	課題曲にコードトーンのみでベースラインを作成しメジャーモードスケールと の関係性を理解。
9		講義・演習	分数コードの成り立ちを理解分数コードの機能を把握	分数コードが入ってないコード進行を実際に分数コードにしてみても自分な りにアレンジを加えて採譜して講師に提出
10		講義・演習	ベースラインの成り立ちとアプローチノートについて理解し、 演奏出来る。	アプローチノートとモードスケールの関係性の理解を深める
11		講義・演習	クロマチックアプローチとその分析について理解し、実践できる。	コード進行に対してのベースラインとクロマチックの 関係性の理解を深める
12		講義・演習	マイナーキーのモードスケールを理解し、演奏出来る。	ドリアン、フリジアン、ロクリアンスケールの理論的解釈を深める 各スケールに1つずつフレーズ作成
13		講義・演習	マイナーキーのコード進行にアルペジオとスケールを設定し、 演奏出来る。	課題曲にコードトーンのみでベースラインを作成しマイナーモードスケールと の関係性を理解。
14		講義・演習	メジャー・マイナーモードスケール、クロマチックスケール、 アプローチノートのおさらい	試験に向けて課題曲の練習
15		講義・演習	課題曲に合わせメジャー・マイナーモードスケール、クロマチックスケール アプローチノートを使ってベースラインを作成	12音階全てのメジャー・マイナーモードスケールを弾けるようにする
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-2 (Dr control Theory 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	星山哲也
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのコンサートドラマーとして活躍中						
授業の学習 内容	①ルーディメンツを通してドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。連符感をやしない楽曲やソロでの自由度を身につける。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。楽曲の中での自由度を広げて欲しい。						
到達目標	それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールと連符感を身につける。 ドラムの音色のコントロールをすると共に全体のバランスを考えた演奏をすることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	演習・ラフ、4.5ストロークラフができる。	演習・ラフ、4.5ストロークラフを復習。
2		演習	演習・ドラッグ、シングルドラッグ、ダブルドラッグができる。	演習・ドラッグ、シングルドラッグ、ダブルドラッグを復習。。
3		演習	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2①ができる。	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2①を復習。
4		演習	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②ができる。	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②を復習。
5		演習	演習・ラタマキュー、シングルラタマキュー、ダブルラタマキ	演習・ラタマキュー、シングルラタマキュー、ダブルラタマキ
6		演習	演習・ルーディメンツ小テストができる。	演習・ルーディメンツ小テストを復習。
7		演習	演習・チェンジアップができる。	演習・チェンジアップを復習。
8		演習	演習・2拍3連、カウント、コンビネーションができる。	演習・2拍3連、カウント、コンビネーションを復習。
9		演習	演習・4拍3連、カウント、コンビネーションができる。	演習・4拍3連、カウント、コンビネーションを復習。
10		演習	演習・3拍4連、カウント、コンビネーションができる。	演習・3拍4連、カウント、コンビネーションを復習。
11		演習	演習・3拍4連on4/4ができる。	演習・3拍4連on4/4を復習。
12		演習	演習・3拍4連on4/4ができる。	演習・3拍4連on4/4を復習。
13		演習	演習・3拍4連on4/4ができる。	演習・3拍4連on4/4を復習。
14		講義	演習・ルーディメンツ小テストができる。	演習・ルーディメンツ小テストを復習。
15		演習	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②ができる。	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②を復習。
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-2 (Ke playing technique 1 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田隆志
学科・コース	パフォーマンスアート科 屋間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野太輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シンセサイザーを使用したサウンドメイク。 ・各音色に合わせた演奏法とフレーズメイキング。 ・譜面上に記載しているコードから演奏を広げるアレンジ方法。 ・1週目を講習、2週目を演習という授業の流れをルーティーンとする。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボード、シンセサイザーの特性と理解。 ・様々な音色を用いて、其々の音色を活かす演奏法の習得。 ・バンド形態、弾き語りのサポート等、あらゆる演奏形態に対応出来る奏法の習得。 						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	シンセサイザーの波形の説明。サイン波またはスクエア波の音色を使ってフレーズメイキング。Key=G、4-5-3m-6進行の中で、仮想楽曲イントロ部としてフレーズを作る。	左記フレーズを数パターン作成する。
2		演習	スクエア波の音色を使って、Key=G、4-5-3m-6進行の中で、仮想楽曲イントロ部としてフレーズを作る。	授業内で学んだ内容の反復練習。
3		演習	ノコギリ波の音色を使ってフレーズメイキング。Key=Bb 6m-2進行、仮想楽曲8Beatでソロ。	左記フレーズを数パターン作成する。
4		演習	ノコギリ波の音色を使ってフレーズメイキング。Key=Bb 6m-2進行、仮想楽曲8Beatでソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。
5		演習	シンセベースのグルーブ。シンセベースの代表的な楽曲から幾つかのベースパターンを抜粋し、演奏を試みる。	左記フレーズの練習。
6		演習	シンセベースのグルーブ。シンセベースの代表的な楽曲から幾つかのベースパターンを抜粋し、演奏を試みる。	授業内で学んだ内容の反復練習。
7		演習	当方の作成したテスト内容を元に中間テストとして実技試験。	1～6週で学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワークシート。
8		演習	シンセプラスによるコードバックキョウ。	左記フレーズの練習。
9		演習	シンセプラスの代表的な楽曲から幾つかのバックキョウパターンを抜粋し、演奏を試みる。	授業内で学んだ内容の反復練習。
10		演習	弾き語り楽曲、ピアノ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	左記楽曲の演奏パターンを作成する。
11		演習	弾き語り楽曲、ピアノ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	授業内で学んだ内容の反復練習。
12		演習	弾き語り楽曲、Rhodes系エレピ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	左記楽曲の演奏パターンを作成する。
13		演習	弾き語り楽曲、Rhodes系エレピ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	授業内で学んだ内容の反復練習。
14		講義	当方の作成したテスト内容を元に実技試験。	後期学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。
15		演習	後期の重要ポイントと復習	後期学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-1 (Vocal Reading 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	城山 恵利
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成
2		講義	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符復習レポート作成
3		講義	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成
5		講義	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。。	Cメジャートライアードを復習レポート作成
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成
7		講義	ベースパート（ベースライン）を理解し説明ができる。	ベースパート（ベースライン）を復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。
9		講義	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成
11		講義	Cマイナースケール(旋律的短音階) 3連符(2)、C 短三和音を理解し説明ができる。	Cマイナースケール(旋律的短音階) 3連符(2)、C 短三和音を復習レポート作成
12		講義	Cマイナースケール(和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を理解し説明ができる。。	Cマイナースケール(和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を復習レポート作成
13		講義	Cマイナースケール(自然的短音階) 8分の6拍子(2拍子として)を理解し説明ができる。	Cマイナースケール(自然的短音階) 8分の6拍子(2拍子として)を復習レポート作成
14		講義	様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音程を理解し説明ができる。	様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音程を復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-1 (Gt melodic concept 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田大志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのコンサートギタリストとして活躍中						
授業の学習 内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 ハーモニックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	基礎テクニック:ピックアップセレクターの使い方を学ぶ	基礎テクニック:ピックアップセレクターの使い方を復習する。
2		演習	基礎テクニック:フィンガートレーニングができるようになる。	基礎テクニック:フィンガートレーニングを復習する。
3		演習	基礎テクニック:ベンディングができるようになる。	基礎テクニック:ベンディングを復習する。
4		演習	基礎テクニック:ハンマリングプリングオフができるようになる。	基礎テクニック:ハンマリングプリングオフを復習する。
5		演習	基礎テクニック:トリル奏法ができるようになる。	基礎テクニック:トリル奏法を復習する。
6		演習	基礎テクニック:レガート奏法ができるようになる。	基礎テクニック:レガート奏法を復習する。
7		演習	フレットの指の運び方ができるようになる。	フレットの指の運び方を復習する。
8		演習	楽譜の読み方ができるようになる。	楽譜の読み方を復習する。
9		演習	コードとは？ができるようになる。	コードとは？を復習する。
10		演習	コードトーン:メジャー編ができるようになる。	コードトーン:メジャー編を復習する。
11		演習	コードトーン:マイナー編ができるようになる。	コードトーン:マイナー編を復習する。
12		演習	インターバルができるようになる。	インターバルを復習する。
13		演習	メジャースケールができるようになる。	メジャースケールを復習する。
14		演習	マイナースケールができるようになる。	マイナースケールを復習する。
15		演習	初見演奏してみる	初見演奏を復習する。
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容の復習と教材の音源を使った練習をしっかりと行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-1 (Ba groove analyze 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬 三
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ベースリストとして様々なアーティストをサポート。						
授業の学習 内容	現代音楽を弾くためのリズムやベースパートの成り立ちが主な内容で、その種類と手法を紹介し、体感することをテーマとする。ビートの感じ方に関する段階的なメニューを消化し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダード・ミディ・ファイルを使用し、授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	ベースという楽器を通して各音符の長さや、記号、楽譜の読みとり、曲調など音楽表現に関する体感を積み重ねることにより、リズムと楽器の成り立ちを習得する事を目的とする。各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に、タイム感と音感の重要性を理解し、扱う楽曲に対する理解力が上がることで、JazzやRock、POPSなどジャンル毎にフレーズや、ビート、音色などの使いわけができることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	ベースパートの重要性とスタンダード・ミディ・ファイルの取扱方法を説明する。	次の授業では音符の長さ(4分、8分、タイ記号)を取り扱うためのクリックを使用した譜面の音符の長さの練習
2		講義	4分、8分休符とタイとを使用した時の違いを説明する。	次の授業では休符(4分、8分)休符の演奏を扱うため、クリックを使用し演奏の中に休符を入れる練習
3		演習	4分、8分休符の体得する。(エクササイズ)	次の授業では音楽記号を使った内容の為スタaccato記号、テヌート記号を読み取れるようにしておく。
4		講義	スタaccato、テヌート記号のグルーヴ的な違いを説明する。	次の授業ではスタaccatoやテヌートを楽譜から読み取り実際の演奏に交える練習をしておく
5		演習	スタaccatoやテヌートを使用した時のグルーヴの違いを体得する。(エクササイズ)	スタaccato、テヌート、シンコペーションを見分けられるようにしておく
6		講義	アクセントの意味、シンコペーション記号の意味合いを説明する。	通常の4分、8分の演奏の中にアクセント、シンコペーションを使用し通常の4分8分の演奏との違いを理解する
7		演習	アクセント、シンコペーションを使用した時のグルーヴの違いを体得する。(エクササイズ)	通常のベーシックリズムパターンに音程を加えて演奏するパターンを理解しておく
8		講義	音程の組み合わせによるリズム的な感じ方の違いを説明する。	通常のベーシックリズムパターンに音程を交えて演奏した際にリズムがずれないように練習
9		演習	音程の組み合わせによるリズム的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)	次の授業から8ビートに入るので今まで授業でやってきた内容を確認し、苦手意識がある分野を復習する
10		講義	基本的な8ビートパターンとパターンの作り方を説明する。	8ビートの理解を深めるために自分が日ごろ弾いているフレーズは何ビートなのか理解する。
11		演習	基本的な8ビートのパターンを体得する。(エクササイズ)	16ビートの授業に入るので16分音符をクリックに合わせて弾けるように練習
12		講義	基本的な16ビートパターンとパターンの作り方を説明する。	16ビートの理解を深めるために自分が日ごろ弾いているフレーズは何ビートなのか理解する。
13		演習	基本的な16ビートのパターンを体得する。(エクササイズ)	前期を通して行った授業の中から長所を伸ばし、短所を埋められるように練習
14		講義	前期に学んだ音楽記号やリズムを元に自分で楽譜を作ってみる。	自分が好きなフレーズやパターンを譜面に書く練習
15		演習	14週目に作った楽譜を自分で演奏してみる。	譜面を読解する力を養う。 また譜面を見ながらベースを弾けるようにする練習
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

滋慶出版教科書、Standard Midi File、Standard Midi Player

科目名	Expression B-1 (Dr groove making 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥 出矢
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ドラムテクニク系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習 内容	現代音楽における基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。テキストに沿った各種トレーニングと並行して、アンサンブルに臨む為の基礎や、テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	ワールドスタンダードなシンプルなりズムフィールの基礎を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグループに対する発見が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	楽器構造(ドラムセット)と特有な記譜法の理解。8ビートとその歴史的背景を知る	楽器構造(ドラムセット)と特有な記譜法の復習
2		演習	8ビートにおけるキックバリエーションの実践。スネアバックビートに関する理解。	8ビートにおけるキックバリエーションの復習
3		演習	8ビートにおける4Wayトレーニングの実践。メトロノームを使用した練習の紹介。	8ビートにおける4Wayトレーニングの復習
4		演習	ハイハットワークの実践。ドラムの役割(アンサンブルスタンス)を理解する。	ハイハットワークの実践。の復習
5		演習	Aブロックフォーム(片手16)での16ビートの実践。ゴーストモーションに関する考察。	Aブロックフォーム(片手16)での16ビートの復習
6		演習	セットオーケストレーション:移動モーションの理解と実践。フィルインに関する考察。	セットオーケストレーション:移動モーションの理解の復習
7		演習	Bブロックフォーム(両手16)での16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	Bブロックフォーム(両手16)での16ビートの復習
8		演習	Bブロックフォームでのグルーブメイクのチェック:パルスイメージの理解と実践。	Bブロックフォームでのグルーブメイクの復習
9		演習	Cブロックフォーム(ミックス)での16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	Cブロックフォーム(ミックス)での16ビートの復習
10		演習	Cブロックフォームでのグルーブメイク:マイナスイオン音源を使用したトレーニングの実施	Cブロックフォームでのグルーブメイク:マイナスイオン音源の復習
11		演習	シャッフルビートの習得。リズム構造の理解とフィールの実践。	シャッフルビートの習得の復習
12		演習	伝統的スタイルの理解と実践。ハネ方のニュアンスに関する考察。	伝統的スタイルの理解と実践の復習
13		演習	3連符に包括されたシャッフルフィールの実践。ゴーストノートのコントロール。	3連符に包括されたシャッフルフィールの実践の復習
14		演習	各ブロックフォームを織り交ぜた応用	各ブロックフォームを織り交ぜた復習
15		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	8ビート、16ビート、シャッフルビートの復習
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶出版オリジナルテキスト「DRUM GROOVE MAKING」				

科目名	Expression B-1 (Key hamonic concept 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	基礎的な演奏方法やコード理論を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、ハーモニーの重要性を理解し、楽曲理解力、表現力の向上を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	基礎練習とキーボードの使用法を理解し実演する。	基礎練習とキーボードの使用法を復習する。
2		演習	基本のコードとコードネームを理解し実演する。	基本のコードとコードネームを復習する。
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実演する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを復習する。
4		演習	ペンタトニック、リフを理解し実演する。	ペンタトニック、リフを復習する。
5		演習	ペンタトニック、リフを理解し実演する。	ペンタトニック、リフを復習する。
6		演習	Bluesを理解し実演する。	Bluesを復習する。
7		講義	メジャースケールとダイアトニックコード1を理解し実演する。	メジャースケールとダイアトニックコード1を復習する。
8		講義	メジャースケールとダイアトニックコード2を理解し実演する。	メジャースケールとダイアトニックコード2を復習する。
9		講義	マイナースケールを理解し実演する。	マイナースケールを復習する。
10		演習	Bossa Nova Dm7-G7 を理解し実演する。	Bossa Nova Dm7-G7を復習する。
11		演習	Blues Em riffを理解し実演する。	Blues Em riffを復習する。
12		演習	いろいろな音色を理解し実演する。	いろいろな音色を復習する。
13		演習	ヴォイシングやレンジによる変化を理解し実演する。	ヴォイシングやレンジによる変化を復習する。
14		演習	強弱による変化を理解し実演する。	強弱による変化を復習する。
15		講義	前期の重要ポイントと復習	前期の重要ポイントと復習
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-2 (Vocal Reading 3)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	三浦 伶 美
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G メジャースケール(1) コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	B \flat メジャースケールについて説明できる。	B \flat メジャースケール復習レポート作成
5		講義	B \flat メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説明できる。	B \flat メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポート作成
6		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	A \flat メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコードについて説明できる。	A \flat メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコード復習レポート作成
10		講義	E マイナースケールについて説明できる。	E マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。。	D メジャースケール復習レポート作成
12		講義	E \flat メジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	E \flat メジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
13		講義	D マイナースケールについて説明できる。	D マイナースケール復習レポート作成
14		講義	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。。	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-2 (Gt melodic concept 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 大志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 ハーモニックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 ギターを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	コードアルペジオ:メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:メジャー編を復習する。
2		演習	コードアルペジオ:メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:メジャー編を復習する。
3		演習	コードアルペジオ:マイナー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:マイナー編を復習する。
4		演習	コードネーム理解方を理解し演奏する。	コードネーム理解方を理解し演奏する。
5		演習	キーの概念を理解し演奏する。	キーの概念を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを理解し演奏する。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	コード進行の解釈を理解し演奏する。	コード進行の解釈を復習する。
8		演習	リズムパターンを理解し演奏する。	リズムパターンを復習する。
9		演習	シャッフルについてを理解し演奏する。	シャッフルについてを復習する。
10		演習	ブルースについてを理解し演奏する。	ブルースについてを復習する。
11		演習	ペントニックスケールを理解し演奏する。	ペントニックスケールを復習する。
12		演習	ブルーススケールに理解し演奏する。	ブルーススケールを復習する。
13		演習	ブルースセッションを理解し演奏する。	ブルースセッションを復習する。
14		演習	モーダルとコーダルを理解し演奏する。	モーダルとコーダルを復習する。
15		演習	自由演奏を理解し演奏する。	自由演奏を復習する。
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-2 (Ba groove analyze 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬 三
学科・コース	パフォーマンスアーツ科 昼間部ー	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ベーシストとして様々なアーティストをサポート。						
授業の学習 内容	現代音楽を弾くためのリズムやベースパートの成り立ちが主な内容で、その種類と手法を紹介し、体感することをテーマとする。前期で体得した4分、8分、16分の音符、を使用した楽曲で使用できる技術を習得し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダード・ミディ・ファイルを使用し、授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	音符の長さや、記号、曲調を楽譜から情報を読み取った上で、実際にはない装飾音符などを自在に演奏することを目標とする。						
評価方法と基準	定期テスト、実技60%(後期で学んだ内容を演奏に織り交ぜることができる) 理解力40%(後期に学んだ内容を説明することができる)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	シャッフルビートのリズム的な捉え方とジャンルとの関係について説明する。(エクササイズ)		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	トリプレットフィルのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	トリプレットフィルのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		講義	ハマーオンとブルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		演習	ハマーオンとブルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
6		講義	スライドダウン、スライドアップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	スライドダウン、アップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
8		講義	16ビートにおけるシンコペーションパターンについて説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
10		講義	バウンス・ビートのリズム的な捉え方と基本的なパターンを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	バウンス・ビートの基本的なパターンを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
12		講義	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
13		演習	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
14		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ装飾音符や音楽記号を用いて演奏する		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
15		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ装飾音符や音楽記号を用いて演奏する		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression B-2 (Dr groove making 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥 出矢
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習 内容	現代音楽における初歩的なスタンダードグルーヴの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。テキストに沿った各種トレーニングと並行して、アンサンブルスタンス、パルスイメージ、サウンドスケープ、リズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	ワールドスタンダードなシンプルナリズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	トリプレットフィールの習得。3連符を構成要素とするリズムの理解と実践。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~3)
2		演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
3		演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
4		演習	ハネた16ビートの実践。キックパターンのバリエーションによるフィールの構築	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~3)
5		演習	6連符に包括されたハネ系16ビートの実践。ゴーストノートコントロール。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
6		演習	ハネ方の度合いに関する考察。バウンスポイントの把握とハネ率の実践。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~2)
7		演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter20)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(8ビート)
8		演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter21)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(8ビート)
9		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter22)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
10		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter23)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
11		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter24)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
12		演習	シャッフルビートの実践。課題曲(Chapter25)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(シャッフル)
13		演習	1年次のまとめ。蓄積したテクニックと表現力についての考察。	振り返りとしての総復習
14		演習	ハネた16ビートを複雑化した応用パターンの解析と理解。	テキストに基づいた基礎リズムの発展系の理解・練習
15		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	1年次のまとめから応用させたフレーズの創造
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-2 (Key harmonic concept 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。 オシレーターなどをうまく使い思い通りのサウンドを作る。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 キーボードを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	シールドなど機材での音の変化を理解する。	シールドなど機材での音の変化を理解し復習。
2		演習	コードの展開の変化を理解する。	コードの展開を理解し復習。
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesの変化を理解する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し復習。
4		演習	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色の変化を理解する。	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色を理解し復習。
5		演習	ペントニック、オブリガートの変化を理解する。	ペントニック、オブリガートを理解し復習。
6		演習	Bluesについての変化を理解する。	Bluesについてを理解し復習。
7		講義	メジャー、マイナー以外のスケール1の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し復習。
8		講義	メジャー、マイナー以外のスケール2の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し復習。
9		講義	ソロの構成の変化を理解する。	ソロの構成を理解し復習。
10		演習	各ジャンルでのバックイングの変化を理解する。	各ジャンルでのバックイングを理解し復習。
11		演習	各ジャンルでのriffの変化を理解する。	各ジャンルでのriffを理解し復習。
12		演習	ピッチベンドを使用したソロの変化を理解する。	ピッチベンドを使用したソロを理解し復習。
13		講義	エフェクト紹介1の変化を理解する。	エフェクト紹介1を理解し復習。
14		講義	エフェクト紹介2の変化を理解する。	エフェクト紹介2を理解し復習。
15		演習	後期の重要ポイントと復習	後期の重要ポイントと復習を理解し復習。
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-1 (Vocal Leading 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	城山 恵利
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成	
2		講義	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符復習レポート作成	
3		講義	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成	
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成	
5		講義	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。。	Cメジャートライアードを復習レポート作成	
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成	
7		講義	ベースパート (ベースライン) を理解し説明ができる。	ベースパート (ベースライン) を復習レポート作成	
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。	
9		講義	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成	
11		講義	Cマイナースケール(旋律的短音階) 3連符(2)。 C 短三和音を理解し説明ができる。	Cマイナースケール(旋律的短音階) 3連符(2)。 C 短三和音を復習レポート作成	
12		講義	Cマイナースケール(和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を理解し説明ができる。。	Cマイナースケール(和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を復習レポート作成	
13		講義	Cマイナースケール(自然的短音階) 8分の6拍子(2拍子として)を理解し説明ができる。	Cマイナースケール(自然的短音階) 8分の6拍子(2拍子として)を復習レポート作成	
14		講義	様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音程を理解し説明ができる。	様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音程を復習レポート作成	
15		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成	
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C-1 (Gt chordwork 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 大志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがリベーストだけではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	コードアルペジオ:メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:メジャー編を復習する。
2		演習	コードアルペジオ:メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:メジャー編を復習する。
3		演習	コードアルペジオ:マイナー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:マイナー編を復習する。
4		演習	コードネーム理解方を理解し演奏する。	コードネーム理解方を理解し演奏する。
5		演習	キーの概念を理解し演奏する。	キーの概念を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを理解し演奏する。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	コード進行の解釈を理解し演奏する。	コード進行の解釈を復習する。
8		演習	リズムパターンを理解し演奏する。	リズムパターンを復習する。
9		演習	シャッフルについてを理解し演奏する。	シャッフルについてを復習する。
10		演習	ブルースについてを理解し演奏する。	ブルースについてを復習する。
11		演習	ペンタトニックスケールを理解し演奏する。	ペンタトニックスケールを復習する。
12		演習	ブルーススケールに理解し演奏する。	ブルーススケールを復習する。
13		演習	ブルースセッションを理解し演奏する。	ブルースセッションを復習する。
14		演習	モーダルとコーダルを理解し演奏する。	モーダルとコーダルを復習する。
15		演習	自由演奏を理解し演奏する。	自由演奏を復習する。
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-1 (Ba chordwork 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬 三
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがリベーストだけではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	シャッフルビートのリズム的な捉え方とジャンルとの関係について説明する。(エクササイズ)		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		演習	ハマーオンとブルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		演習	ハマーオンとブルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
6		演習	スライドダウン、スライドアップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	スライドダウン、アップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
8		演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンについて説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
10		演習	バウンス・ビートのリズム的な捉え方と基本的なパターンを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	バウンス・ビートの基本的なパターンを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
12		演習	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
13		演習	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
14		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ装飾音符や音楽記号を用いて演奏する		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
15		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ装飾音符や音楽記号を用いて演奏する		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C-1 (Percussion 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大久保 宙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	パーカッションの基礎を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグルーブに対する発見が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽器構造と特有な記譜法を理解し実演	楽器構造と特有な記譜法を理解し復習
2		演習	メトロノームを使用したを理解し実演。	メトロノームを使用したを理解し復習
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
4		演習	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
5		演習	ゴーストモーションに関するを理解し実演	ゴーストモーションに関するを理解し復習
6		演習	フィルインに関する考察を理解し実演	フィルインに関する考察を理解し復習
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
8		演習	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し実演	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し復習
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し実演	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し復習
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施を理解し実演	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施を理解し復習
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践を理解し実演	リズム構造の理解とフィールの実践を理解し復習
13		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
14		試験	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
15		演習	学期末試験実施と復習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-1 (Key chordwork 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を通して調(キー)の重要性を説明できる。	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を楽器に置き換えて実践してみる。	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を楽器に置き換えて実践してみる。
2		講義	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を通して調(キー)の重要性を説明できる。	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を楽器に置き換えて実践してみる。	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を楽器に置き換えて実践してみる。
3		講義	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを説明できる。	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを楽器に置き換えて実践してみる。	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを楽器に置き換えて実践してみる。
4		講義	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを説明できる。	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを楽器に置き換えて実践してみる。	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを楽器に置き換えて実践してみる。
5		講義	平行調の仕組みを説明できる。	平行調の仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。	平行調の仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
6		講義	平行調の仕組みを説明できる。	平行調の仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。	平行調の仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
7		講義	Available Note Scaleを説明できる。	Available Note Scaleを楽器に置き換えて実践してみる。	Available Note Scaleを楽器に置き換えて実践してみる。
8		講義	Available Note Scaleを説明できる。	Available Note Scaleを楽器に置き換えて実践してみる。	Available Note Scaleを楽器に置き換えて実践してみる。
9		講義	Major Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	Major Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。	Major Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
10		講義	Major Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	Major Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。	Major Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
11		講義	Minor Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	Minor Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。	Minor Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
12		講義	Minor Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	Minor Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。	Minor Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
13		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード) またコードに割り当てるスケール例を説明できる。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード) を楽器に置き換えて実践してみる。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード) を楽器に置き換えて実践してみる。
14		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)説明できる。説明する。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード) を楽器に置き換えて実践してみる。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード) を楽器に置き換えて実践してみる。
15		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようにする。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
準備学習 時間外学習			様々な楽曲のコード進行を分析する基礎力と応用を身につけるための反復練習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C-2 (Vocal Leading 4)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	三浦 侖 美
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G メジャースケール(1) コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	Bbメジャースケールについて説明できる。	Bbメジャースケール復習レポート作成
5		講義	Bbメジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説明できる。	Bbメジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポート作成
6		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	Abメジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコードについて説明できる。	Abメジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコード復習レポート作成
10		講義	E マイナースケールについて説明できる。	E マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。。	D メジャースケール復習レポート作成
12		講義	Ebメジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	Ebメジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
13		講義	D マイナースケールについて説明できる。	D マイナースケール復習レポート作成
14		講義	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。。	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
15		講義	期末試験及び期末課題の提出。	期末課題の提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-2 (Gt chordwork 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 大志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがベースリストだけではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord (代理コード) を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読 (予習)、未理解箇所の解明
2		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読 (予習)、未理解箇所の解明
3		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読 (予習)、未理解箇所の解明
4		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読 (予習)、未理解箇所の解明
5		講義	Secondary Dominantの働きを説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読 (予習)、未理解箇所の解明
6		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読 (予習)、未理解箇所の解明
7		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読 (予習)、未理解箇所の解明
8		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読 (予習)、未理解箇所の解明
9		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読 (予習)、未理解箇所の解明
10		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読 (予習)、未理解箇所の解明
11		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読 (予習)、未理解箇所の解明
12		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読 (予習)、未理解箇所の解明
13		演習	後期に学んだ理論を楽器を使い行う。	次の予定Unitの熟読 (予習)、未理解箇所の解明
14		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	未理解箇所の解明
15		演習	後期に学んだ項目の復習	未理解箇所の解明
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-2 (Ba chordwork 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬 三
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがベースリストだけではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明	
2		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明	
3		講義	Major Chord Progressionの基本/パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明	
4		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明	
5		講義	Secondary Dominantの働きを説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明	
6		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明	
7		講義	Minor Chord Progressionの基本/パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明	
8		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明	
9		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明	
10		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明	
11		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明	
12		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明	
13		演習	後期に学んだ理論を楽器を使い行う。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明	
14		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	未理解箇所の解明	
15		演習	後期に学んだ項目の復習	未理解箇所の解明	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C-2 (Percussion 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大久保 宙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。 役割(アンサンブルスタンス)を理解する。						
到達目標	前期のシンプルなりズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	1年次のまとめ。蓄積したテクニックと表現力についての考察。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		演習	パーカッションとドラムの違い(楽器の仕組みや、フレーズ、背景など)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		講義	課題曲(パート分け)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
6		講義	課題曲(楽譜作成、要点説明)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	課題曲(パートごとに分かれたアンサンブル理解①)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
8		演習	課題曲(パートごとに分かれたアンサンブル理解②)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	課題曲(全パート交えてのアンサンブル理解①)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
10		演習	課題曲(全パート交えてのアンサンブル理解②)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	試験課題の整理と対策の検討	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
12		演習	期末試験を見据えての総チェック	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
13		演習	期末試験実施	未達成箇所の復習
14		演習	課題曲発表	未達成箇所の復習
15		演習	後期実施事項の復習	未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-2 (Key chordwork 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)	ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード) またコードに割り当てるスケール例を説明する。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)	を楽器に置き換えて実践してみる。
3		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて	実践してみる。
4		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて	実践してみる。
5		講義	Secondary Dominantの働きを説明できるようになる。	Secondary Dominantの働きを楽器に置き換えて実践してみる。	
6		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて	実践してみる。
7		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて	実践してみる。
8		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	平行調への転調の見抜き方を楽器に置き換えて実践してみる。	
9		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	平行調への転調の見抜き方を楽器に置き換えて実践してみる。	
10		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	別な調への転調の見抜き方を楽器に置き換えて実践してみる。	
11		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	別な調への転調の見抜き方を楽器に置き換えて実践してみる。	
12		講義	後期に学んだ理論を楽器を使って実演できる。	後期に学んだ理論を楽器を楽器に置き換えて実践してみる。	
13		講義	後期に学んだ理論を楽器を使って実演できる。	後期に学んだ理論を楽器を楽器に置き換えて実践してみる。	
14		講義	テストと復習	全てのunitを確認し実演してみる。	
15		講義	学んだ項目の総復習	学んだ項目の総復習	
準備学習 時間外学習			様々な楽曲のコード進行を分析する基礎力と応用を身につけるための反復練習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Band Ensemble A-1 (Gt style 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス・ ジャーガン セン
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ギターの基本知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		演習	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)	ウォームアップフレーズについて復習する		
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナー・メジャーペンタトニック)	スケールを基にしたフレーズについて復習する		
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (メジャースケール)	スケールを基にしたフレーズについて復習する		
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナースケール)	スケールを基にしたフレーズについて復習する		
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (インターバル)	スケールを基にしたフレーズについて復習する		
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)	について復習する		
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる (コードストローク、ソロ)	16ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)	について復習する		
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する			
9		演習	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する			
10		演習	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について演奏できる	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について復習する			
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する			
12		演習	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する			
13		演習	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について復習する			
14		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニック・コードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニック・コードアルペジオの関係性について)について復習する			
15		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニック・コードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニック・コードアルペジオの関係性について)について復習する			
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。				
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	Band Ensemble A-1 (Ba style 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	堀川 俊 平
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。						
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアッププレイスについて復習する
2		演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する
3		演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する
4		演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する
5		演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する
6		演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する
7		演習	ペントニックコードについて演奏できる	ペントニックコードについて復習する
8		演習	音符の長さについて演奏できる	音符の長さについて復習する
9		演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる
10		演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる
11		演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる
12		演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる
13		演習	メジャー・マイナースケールについて演奏できる	メジャー・マイナースケールについて演奏できる
14		演習	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる
15		演習	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A-1 (Dr style 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥 出矢
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)演奏できる	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)	ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する、	
3		演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する、	
4		演習	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を説明できる	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を復習する、	
5		演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する、	
6		演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する、	
7		演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する、	
8		演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する、	
9		演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、	
10		演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、	
11		演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する、	
12		演習	シャッフル・3連系のグルーブの習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーブの習得し演奏を復習する、	
13		演習	シンコペーションを習得し演奏できる	シンコペーションを習得し演奏を復習する、	
14		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、	
15		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Band Ensemble A-1 (Key style 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)演奏で	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する	
2		演習	楽譜の読み方 ト音を説明できる。	楽譜の読み方 ト音を復習する。	
3		演習	楽譜の読み方 ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方 ヘ音を復習する	
4		演習	楽譜の書き方 音符を説明できる。	楽譜の書き方 音符を復習する。	
5		演習	楽譜の書き方 記号を説明できる。	楽譜の書き方 記号を復習する。	
6		演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。	
7		演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。	
8		演習	コードアレンジ(和音の積み方)学び演奏できる。	コードアレンジ(和音の積み方)を復習する。	
9		演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。	
10		演習	オシレーターの説明学び演奏できる。	オシレーターの説明を復習する。	
11		演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。	
12		演習	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。 (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	
13		演習	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	主要四和音を復習する。 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	
14		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析演奏を復習する。 (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	
15		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Band Ensemble A-2 (Gt style 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス・ ジャーガン セン
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コードルとモーダルについて理解し、コードの分解と着地について理解を深める。						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で演奏し、アドリブで演奏できるか。また理論的な解釈で説明できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)	ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ダイアトニックとチャーチモードの関係性について説明できる。	ダイアトニックとチャーチモードの関係性を復習する。	
3		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/ドリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/ドリアンスケール)	スケールを基にしたフレーズの習得
4		演習	演奏における音楽理論 (チャーチモード/フリジアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/フリジアンスケール)	スケールを基にしたフレーズの習得
5		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/リディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/リディアンスケール)	スケールを基にしたフレーズの習得
6		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/ミクソリディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/ミクソリディアンスケール)	スケールを基にしたフレーズの習得
7		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/ロクリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/ロクリアンスケール)	スケールを基にしたフレーズの習得
8		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (メロディックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (メロディックマイナースケール)	スケールを基にしたフレーズの習得
9		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (ハーモニックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (ハーモニックマイナースケール)	スケールを基にしたフレーズの習得
10		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (ディミニッシュスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (ディミニッシュスケール)	スケールを基にしたフレーズの習得
11		演習	ノンダイアトニックコードについて説明できる。	ノンダイアトニックコードを復習する。	
12		演習	コードの分解と着地について説明できる。	コードの分解と着地を復習する。	
13		演習	アドリブ/モーダルとコードルについて説明できる。	アドリブ/モーダルとコードルを復習する。	
14		演習	リズムメソッドについて説明できる。	リズムメソッドを復習する。	
15		演習	講師の提示する楽譜でアドリブ演奏について説明できる。	講師の提示する楽譜を復習する。	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Band Ensemble A-2 (Ba style 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	堀川 俊 平
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	アンサンブルを行うのに必要な基礎力を身につけ、家譜代楽曲を使用し、表現力を養う。						
到達目標	アンサンブルという音でのコミュニケーションを通して、自分を表現できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)	ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ポップスの基礎的な演奏方法を習得し演奏する。	ポップスの基礎的な演奏方法を復習する。	
3		演習	裏拍を理解し、グルーブを理解し演奏する。	裏拍を理解し、グルーブを復習する。	
4		演習	R&Bの基礎的な演奏方法を習得し演奏する。	R&Bの基礎的な演奏方法を復習する。	
5		演習	ソロのフレーズメイキングを習得し演奏する。	ソロのフレーズメイキングを復習する。	
6		演習	ペンタニックコードを習得し演奏する。	ペンタニックコードを復習する。	
7		演習	オンタイム・前ノリ・後ろノリを習得し演奏する。	オンタイム・前ノリ・後ろノリを復習する。	
8		演習	アンサンブル内での効果的な演奏方法を課題曲を習得し演奏する。	アンサンブル内での効果的な演奏方法を課題曲を復習する。	
9		演習	スラップの奏法、効果を習得し演奏する。	スラップの奏法、効果を復習する。	
10		演習	ベースのコード引きを習得し演奏する。	ベースのコード引きを復習する。	
11		演習	ベースのコード引きを習得し演奏する。	ベースのコード引きを復習する。	
12		演習	DAWの利点を習得し演奏する。	DAWの利点を復習する。	
13		演習	DAWを習得し演奏する。	DAWを復習する。	
14		演習	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを習得し演奏する。	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを復習する。	
15		演習	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを習得し演奏する。	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを復習する。	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Band Ensemble A-2 (Dr style 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥 出矢
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	様々なジャンルのリズムを学ぶ。実践を想定しての効果的な演奏を習得。 電子機器の使用を習得。						
到達目標	様々なリズムの習得。DAWを使用したLIVEの実施。 電子ドラムの扱いを習得。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	JAZZのフィールを習得し演奏する。	JAZZのフィールを復習する。
3		演習	コンビネーションfillの構築を習得し演奏する。	コンビネーションfillの構築を復習する。
4		演習	サンバ・ボサノバ・レゲエを習得し演奏する。	サンバ・ボサノバ・レゲエを復習する。
5		演習	ブラシの使用方法を習得し演奏する。	ブラシの使用方法を復習する。
6		演習	アンサンブルの理解、実践を習得し演奏する。	アンサンブルの理解、実践を復習する。
7		演習	ドラムのサウンドとアンサンブルを習得し演奏する。	ドラムのサウンドとアンサンブルを復習する。
8		演習	電子ドラムの実践的な使用方法を習得し演奏する。	電子ドラムの実践的な使用方法を復習する。
9		演習	コンガ・ボンゴ等のアンサンブルを習得し演奏する。	コンガ・ボンゴ等のアンサンブルを復習する。
10		演習	楽器のメンテナンスとその効果を習得し演奏する。	楽器のメンテナンスとその効果を復習する。
11		演習	DAWを使用したのドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用したのドラミングを復習する。
12		演習	DAWを使用したのドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用したのドラミングを復習する。
13		演習	DAWの実践的なアンサンブルを習得し演奏する。	DAWの実践的なアンサンブルを復習する。
14		演習	LIVEを想定してのステージングを習得し演奏する。	LIVEを想定してのステージングを復習する。
15		演習	DAWを使用したのドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用したのドラミングを復習する。
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A-2 (Key style 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。 ダイアトニック以外のコードや、スケールなどより実践的なものを行う。						
到達目標	ダイアトニックコード以外のコードを理解しアレンジなどの理解力を高める。 演奏面ではボイスを変えしよりプロフェッショナルな演奏力をつける。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)	ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	M7、7コードの成り立ちを習得し演奏する。	M7、7コードの成り立ちを復習する。	
3		演習	m7、m9コードの成り立ちを習得し演奏する。	m7、m9コードの成り立ちを復習する。	
4		演習	dim,augコードの成り立ちを習得し演奏する。	dim,augコードの成り立ちを復習する。	
5		演習	ダイアトニクスケールを習得し演奏する。	ダイアトニクスケールを復習する。	
6		演習	ナチュラル、メロディック、ハーモニック マイナースケールを習得し演奏する。	ナチュラル、メロディック、ハーモニック マイナースケールを復習する。	
7		演習	1oct soloを習得し演奏する。	1oct soloを復習する。	
8		演習	1oct solo+バックキンを習得し演奏する。	1oct solo+バックキンを復習する。	
9		演習	2oct soloを習得し演奏する。	2oct soloを復習する。	
10		演習	2oct solo+バックキンを習得し演奏する。	2oct solo+バックキンを復習する。	
11		演習	midiを使つての演奏 課題曲の楽譜作成を習得し演奏する。	midiを使つての演奏 課題曲の楽譜作成を復習する。	
12		演習	1oct soloを習得し演奏する。	1oct soloを復習する。	
13		演習	1oct solo+バックキンを習得し演奏する。	1oct solo+バックキンを復習する。	
14		演習	2oct soloを習得し演奏する。	2oct soloを復習する。	
15		演習	2oct solo+バックキンを習得し演奏する。	2oct solo+バックキンを復習する。	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Band Ensemble B-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 クリス・ジャー ガンセン 堀川 俊平 奥 出矢 織原 洋子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	
教員の略歴						
授業の学習内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。					
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	バンドアンサンブルについての概要説明、ブルースの成り立ちや歴史を学び、ブルースを演奏する必要性を認識する。	授業で学んだブルースについて復習し、理解を深める。
2		演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ブルースのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
3		演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
4		演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	モータウンのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
5		演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
6		演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ソウルのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
7		演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
8		演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ファンクのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
9		演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
10		演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	70'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
11		演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
12		演習	80年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	80'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
13		演習	80年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
14		演習	中間発表。課題曲の中から選択した曲をステージでパフォーマンスする。	実際のステージで演奏することにより気づいた部分を反省し、弱点克服に向けて練習をする。
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習をしっかりと行う。各ジャンルの課題曲以外の曲もたくさん聞く。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble B-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 クリス・ジャー ガンセン 堀川 俊平 奥 出矢 織原 洋子
学科・コース	パフォーマンスアート科 屋間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	
教員の略歴						
授業の学習内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。					
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	90'sRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
2		演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
3		演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
4		演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
5		演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryPOPのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
6		演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
7		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業を進めていく事の理解を深めていく。
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。
15		演習	テストと復習	1-14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習をしっかりと行う。バンド練習を行い、制作物やアー写、撮影など自主的に行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セッションアレンジゼミ 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	村田 隆行
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	鳴瀬喜博・IKUO・村田、3人のベーシストによるユニット「THE CHOPPERS REVOLUTION」を結成し、キングレコード、徳間JAPANより2枚のフル・アルバムとライブDVDを発表。						
授業の学習 内容	①「BANDアンサンブルをテーマに、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」 ②「各パートの授業、理論の実践の場。」 ③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。(アンサンブル力・楽器演奏力)この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来る、自信に繋がっていく場になって欲しい。」 ①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。						
到達目標	①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。 ②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。 ③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来る様になる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	この授業の説明とチームの振り分け	共有された課題曲を全曲一通り事前に聞いておく
2		演習	課題曲①を使つてのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジの応用	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使つてのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
7		演習	課題曲を使つてのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		講義	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジの応用	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
9		講義	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジの応用	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
12		演習	課題曲を使つてのアンサンブル③(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使つてのアンサンブル④(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
14		講義	前期項目の総復習	前期未達成項目の復習
15		演習	期末テスト実施と復習	前期未達成項目の復習
準備学習 時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セッションアレンジゼミ 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	村田 隆行
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	鳴瀬喜博・IKUO・村田、3人のベーシストによるユニット「THE CHOPPERS REVOLUTION」を結成し、キングレコード、徳間JAPANより2枚のフル・アルバムとライブDVDを発表。						
授業の学習 内容	<p>①「前期よりもリズム、コード感に特化し、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」</p> <p>②「各パートの授業、理論の実践の場。」</p> <p>③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。(アンサンブル力・楽器演奏力)この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」</p> <p>①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。</p>						
到達目標	<p>①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。</p> <p>②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。</p> <p>③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来る様になる。</p>						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	前期の振り返り	後期の予習
2		演習	課題曲①を使つてのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジの応用	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使つてのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
7		演習	課題曲を使つてのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		演習	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジの応用	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
9		演習	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジの応用	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
12		演習	課題曲を使つてのアンサンブル③(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使つてのアンサンブル④(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
14		講義	後期項目の総復習	後期末達成項目の復習
15		演習	期末テスト実施と復習	後期末達成項目の復習
準備学習 時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Vocal Performance 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	西野 恭 平
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、より高度なソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、より高度なソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しより高度なパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しより高度なパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識したより高度な歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識したより高度な歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	試験と復習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
15		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				

科目名	Vocal Performance 4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	西野 恭 平
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、より高度なソロアプローチ方やインプロテクニクを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、より高度なソロアプローチ方やインプロテクニクを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しより高度なパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しより高度なパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	より高度な共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	より高度な共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	より高度な共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	より高度な共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	試験総括(改善点を知る)	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				

科目名	Jazz Dance 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	崎野 光 児
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	クラシックバレエを基礎としたアイソレーションを繰り返し行い、応用を身につける。 身体の柔軟性を上げるためのストレッチ。 ターン、ジャンプなどの基本的なテクニック向上のためのクロスフロア。 振り付けを行いカウントで覚えて、その後音楽で踊る。						
到達目標	基礎～応用練習の積み重ねによって、しっかりとしたダンス能力を身につける。 プロの世界でも通用するような基礎、応用となるダンススキル習得を目指す。 オーディション合格に向けて振り覚えのスピードを上げる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	振り付けを学び理解し実践できる	振り付けを学び理解し実践、動画でチェックする。
2		演習	覚えた振りで表現を学び理解し実践できる	覚えた振りで表現を学び理解し実践、動画でチェックする。
3		演習	振りの正しいポジションを学び理解し実践できる	振りの正しいポジションを学び理解し実践、動画でチェックする。
4		演習	新しい振り付けを学び理解し実践できる	新しい振り付けを学び理解し実践、動画でチェックする。
5		演習	それぞれの個性をいかして踊ることを学び理解し実践できる	それぞれの個性をいかして踊ることを学び理解し実践、動画でチェックする。
6		演習	それぞれの苦手な所の克服法を学び理解し実践できる	それぞれの苦手な所の克服法を学び理解し実践、動画でチェックする。
7		演習	様々なパターンの振りを学び理解し実践できる	様々なパターンの振りを学び理解し実践、動画でチェックする。
8		演習	振りで全体的に緩急を学び理解し実践できる	振りで全体的に緩急を学び理解し実践、動画でチェックする。
9		演習	振りの中でのテクニックを学び理解し実践できる	振りの中でのテクニックを学び理解し実践、動画でチェックする。
10		演習	新たな振り付けを学び理解し実践できる	新たな振り付けを学び理解し実践、動画でチェックする。
11		演習	ターンとジャンプのクオリティー強化を学び理解し実践できる	ターンとジャンプのクオリティー強化を学び理解し実践、動画でチェックする。
12		演習	自分にしかできない表現力を学び理解し実践できる	自分にしかできない表現力を学び理解し実践、動画でチェックする。
13		演習	振りで全体的に緩急を学び理解し実践できる	振りで全体的に緩急を学び理解し実践、動画でチェックする。
14		演習	振りの中でのテクニックを学び理解し実践できる	振りの中でのテクニックを学び理解し実践、動画でチェックする。
15		演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			常に自分が目指すための舞台観劇をする。ネットなどでのオーディション情報をチェックする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Jazz Dance 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	崎野 光 児
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	クラシックバレエを基礎としたアイソレーションを繰り返し行い、応用を身につける。 身体の柔軟性を上げるためのストレッチ。 ターン、ジャンプなどの基本的なテクニック向上のためのクロスフロア。 振り付けを行いカウントで覚えて、その後音楽で踊る。						
到達目標	基礎～応用練習の積み重ねによって、しっかりとしたダンス能力を身につける。 プロの世界でも通用するような基礎、応用となるダンススキル習得を目指す。 オーディション合格に向けて振り覚えのスピードを上げる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ターン、ジャンプなどを学び理解し実践できる	ターン、ジャンプなどを学び理解し実践、動画でチェックする。	
2		演習	ターン、ジャンプなどを学び理解し実践できる	ターン、ジャンプなどを学び理解し実践、動画でチェックする。	
3		演習	振り付けを学び理解し実践できる	振り付けを学び理解し実践、動画でチェックする。	
4		演習	振りの中でのテクニックの応用を学び理解し実践できる	振りの中でのテクニックの応用を学び理解し実践、動画でチェックする。	
5		演習	振りの中での表現力を学び理解し実践できる	振りの中での表現力を学び理解し実践、動画でチェックする。	
6		演習	振り覚えのスピードを学び理解し実践できる	振り覚えのスピードを学び理解し実践、動画でチェックする。	
7		演習	振りの中での表情をを学び理解し実践できる	振りの中での表情をを学び理解し実践、動画でチェックする。	
8		演習	より高度な振りを学び理解し実践できる	より高度な振りを学び理解し実践、動画でチェックする。	
9		演習	オーディションなどでの魅せ方を学び理解し実践できる	オーディションなどでの魅せ方を学び理解し実践、動画でチェックする。	
10		演習	テクニックの向上練習を学び理解し実践できる	テクニックの向上練習を学び理解し実践、動画でチェックする。	
11		演習	集中力の作り方を学び理解し実践できる	集中力の作り方を学び理解し実践、動画でチェックする。	
12		演習	オーディションでのメンタルを学び理解し実践できる	オーディションでのメンタルを学び理解し実践、動画でチェックする。	
13		演習	集中力の作り方を学び理解し実践できる	集中力の作り方を学び理解し実践、動画でチェックする。	
14		演習	集中力の作り方を学び理解し実践できる	集中力の作り方を学び理解し実践、動画でチェックする。	
15		演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成	
準備学習 時間外学習			常に自分が目指すための舞台観劇をする。ネットなどでのオーディション情報をチェックする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Hip Hop Dance 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	木本 雄
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ダンサーにとって必要な身体作り、street dance 特にPOPPIN DANCEIに必要なメソッドの習得、 また高度なソロアプローチ方やインプロテクニックの応用を学ぶ						
到達目標	Poppinはstreet danceだけではなくjazzやコンテンポラリーにも多く取り入れられているので幅の広い高度なダンステクニックを 習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	高度なヒットを学び実践できる	ヒットを学び実践、確認動画でチェックする。
2		演習	高度なヒットを学び実践できる	ヒットを学び実践確認動画でチェックする。
3		演習	高度なインプロを学び実践できる	インプロを学び実践確認動画でチェックする。
4		演習	高度なタイムストップを学び実践できる	タイムストップを学び実践確認動画でチェックする。
5		演習	高度なタイムストップを学び実践できる	タイムストップを学び実践確認動画でチェックする。
6		演習	高度なハンドウェーブを学び実践できる	ハンドウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
7		演習	高度なハンドウェーブを学び実践できる	ハンドウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
8		演習	高度なボディウェーブを学び実践できる	ボディウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
9		演習	高度なボディウェーブを学び実践できる	ボディウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
10		演習	高度なアニメーションを学び実践できる	アニメーションを学び実践確認動画でチェックする。
11		演習	高度なアニメーションを学び実践できる	アニメーションを学び実践確認動画でチェックする。
12		演習	高度なインプロを学び実践できる	インプロを学び実践確認動画でチェックする。
13		演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	振付けられた振りとインプロが実践確認動画でチェックする。
14		演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	振付けられた振りとインプロが実践確認動画でチェックする。
15		演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なダンスのスキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Hip Hop Dance 4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	木本 雄
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ダンサーにとって必要な身体作り、street dance 特にPOPPIN DANCEIに必要なメソッドの習得、 また高度なソロアプローチ方やインプロテクニックの応用を学ぶ						
到達目標	Poppinはstreet danceだけではなくjazzやコンテンポラリーにも多く取り入れられているので幅の広い高度なダンステクニックを 習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	高度なキングコブラを学び実践できる	キングコブラを学び実践、確認動画でチェックする。
2		演習	高度なキングコブラを学び実践できる	キングコブラを学び実践、確認動画でチェックする。
3		演習	高度なティッキングを学び実践できる	ティッキングを学び実践、確認動画でチェックする。
4		演習	高度なティッキングを学び実践できる	ティッキングを学び実践、確認動画でチェックする。
5		演習	高度なフローティングを学び実践できる	フローティングを学び実践、確認動画でチェックする。
6		演習	高度なフローティングを学び実践できる	フローティングを学び実践、確認動画でチェックする。
7		演習	高度なブガルーリズムを学び実践できる	ブガルーリズムを学び実践、確認動画でチェックする。
8		演習	高度なブガルーリズムを学び実践できる	ブガルーリズムを学び実践、確認動画でチェックする。
9		演習	高度なブガールステップを学び実践できる	ブガールステップを学び実践、確認動画でチェックする。
10		演習	高度なブガールステップを学び実践できる	ブガールステップを学び実践、確認動画でチェックする。
11		演習	高度なインプロを学び実践できる	インプロを学び実践、確認動画でチェックする。
12		演習	高度なインプロを学び実践できる	インプロを学び実践、確認動画でチェックする。
13		演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	振付けられた振りとインプロが実践、確認動画でチェックする。
14		演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	振付けられた振りとインプロが実践、確認動画でチェックする。
15		演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なダンスのスキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Piano Duo 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	國末 慶 宏 橋元 美 沙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望ましい。本講義ではいくつかのピアノパターンにあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルスキルを習得し実践できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
14		演習	歌からスタートする音楽を学び実践できる	歌からスタートする音楽を学び実践できる
15		演習	試験と復習	1-14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Piano Duo 4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	國末 慶 宏 美 橋元 沙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブル力を育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
14		演習	歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる	歌からスタートする音楽を学び実践できる
15		演習	試験と復習	1-14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Chorus Work 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井 康 行
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1. ロック、ポップス曲にも対応できるハーモニー感覚の基礎を習得する。 2. コードを使い音感と耳を鍛える 実践に使える講義を実施する。						
到達目標	1. ハーモニーの基本とされる3度のハーモニーを習得する。 2. 5.6.7度等の難易度が高いハーモニーを習得する。 3. ユニゾン、オクターブユニゾンのハーモニーを習得する。 4. 人が歌っている曲に自動的にハーモニーを載せる事ができるようにする。						
評価方法と基準	1. 3度ハーモニー実技試験(25%) 2. 5.6.7度ハーモニー実技試験(25%) 3. ユニゾン、オクターブユニゾンハーモニー実技試験(25%) 4. 人が歌っている曲に自動的にハーモニーを載せる実技試験(25%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	基本である姿勢・呼吸、体幹を学び実践できる。	基本である姿勢・呼吸、体幹を学び実践し動画でチェックする。
2		演習	様々なコードを使い音感を鍛えて実践できる。	様々なコードを使い音感を鍛えて実践し動画でチェックする。
3		演習	コードを使ったハーモナイズを実践できる	コードを使ったハーモナイズを実践し動画でチェックする。
4		演習	基本の3度ハーモニーを理解し実践できる	基本の3度ハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
5		演習	4.5.6.7度のハーモニーを理解し実践できる	4.5.6.7度のハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
6		演習	楽曲を使いハーモニーを理解し実践できる	楽曲を使いハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
7		演習	楽曲を更に深めを理解し実践できる	楽曲を更に深めを理解し実践し動画でチェックする。
8		演習	グループを作り色々な人とハーモニーを理解し実践できる	グループを作り色々な人とハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
9		演習	ロックのリズムでハーモニーを理解し実践できる	ロックのリズムでハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
10		演習	ポップスのリズムでハーモニーを理解し実践できる	ポップスのリズムでハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
11		演習	R&Bのリズムでハーモニーを理解し実践できる	R&Bのリズムでハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
12		演習	JAZZのリズムでハーモニーを理解し実践できる	JAZZのリズムでハーモニーを実践し動画でチェックする。
13		演習	JAZZのリズムでハーモニーのアドリブを理解し実践できる	JAZZのリズムでハーモニーのアドリブを理解し実践し動画でチェックする。
14		演習	R&Bのリズムでハーモニーのアドリブを理解し実践できる	R&Bのリズムでハーモニーのアドリブを理解し実践し動画でチェックする。
15		演習	実技試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習 時間外学習			コーラスワークに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				

科目名	Chorus Work 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井 康 行
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1.前期に学んだ内容を更に深め仕事の現場で使える力を養う 2.ア・カペラ含む更に高度な技術を身に付ける 3.譜面を使い初見カトレーニング						
到達目標	1.ハーモニーの基本とされる3度のハーモニーを習得する。 2.5.6.7度等の難易度が高いハーモニーを習得する。 3.ユニゾン、オクターブユニゾンのハーモニーを習得する。 4.人が歌っている曲に自動的にハーモニーを載せる事ができるようにする。						
評価方法と基準	1.3度ハーモニー実技試験(25%) 2.5.6.7度ハーモニー実技試験(25%) 3.ユニゾン、オクターブユニゾンハーモニー実技試験(25%) 4.人が歌っている曲に自動的にハーモニーを載せる実技試験(25%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	課題曲実践を学び実践できる。	課題曲実践を学び実践し動画でチェックする。
2		演習	前週の復習で修正や内容の掘り下げを学び実践できる。	前週の復習で修正や内容の掘り下げを学び実践し動画でチェックする。
3		演習	1人1人課題曲を決めハーモニー付けを学び実践できる。	1人1人課題曲を決めハーモニー付けを学び実践し動画でチェックする。
4		演習	前週の引き続きを学び実践できる。	前週の引き続きを学び実践し動画でチェックする。
5		演習	ア・カペラで音感を学び実践できる。	ア・カペラで音感を学び実践し動画でチェックする。
6		演習	様々な楽曲をア・カペラを学び実践できる。	様々な楽曲をア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
7		演習	ア・カペラを使ってグルーブ感ピッチ感矯正を学び実践できる。	ア・カペラを使ってグルーブ感ピッチ感矯正を学び実践し動画でチェックする。
8		演習	少人数～大人数でのア・カペラを学び実践できる。	少人数～大人数でのア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
9		演習	前週のア・カペラを学び実践できる。	前週のア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
10		演習	クラブやスナップ取り入れてア・カペラを学び実践できる。	クラブやスナップ取り入れてア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
11		演習	ア・カペラを使ってグルーブ感ピッチ感矯正を学び実践できる。	ア・カペラを使ってグルーブ感ピッチ感矯正を学び実践できる。
12		演習	少人数～大人数でのア・カペラを学び実践できる。	少人数～大人数でのア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
13		演習	前週のア・カペラを学び実践できる。	前週のア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
14		演習	クラブやスナップ取り入れてア・カペラを学び実践できる。	クラブやスナップ取り入れてア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
15		演習	実技試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習 時間外学習			コーラスワークに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				

科目名	Percussion 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大久保 宙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。 役割(アンサンブルスタンス)を理解する。						
到達目標	前期のシンプルなりズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグルーブに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	1年次のまとめ。蓄積したテクニックと表現力についての考察。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		演習	パーカッションとドラマの違い(楽器の仕組みや、フレーズ、背景など)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		講義	課題曲(パート分け)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
6		講義	課題曲(楽譜作成、要点説明)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	課題曲(パートごとに分かれたアンサンブル理解①)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
8		演習	課題曲(パートごとに分かれたアンサンブル理解②)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	課題曲(全パート交えてのアンサンブル理解①)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
10		演習	課題曲(全パート交えてのアンサンブル理解②)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	試験課題の整理と対策の検討	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
12		演習	期末試験を見据えての総チェック	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
13		演習	期末試験実施	未達成箇所の復習
14		演習	課題曲発表	未達成箇所の復習
15		演習	後期実施事項の復習	未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Percussion 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大久保 宙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。 役割(アンサンブルスタンス)を理解する。						
到達目標	前期のシンプルなりズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグルーブに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	1年次のまとめ。蓄積したテクニックと表現力についての考察。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		演習	パーカッションとドラマの違い(楽器の仕組みや、フレーズ、背景など)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		講義	課題曲(パート分け)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
6		講義	課題曲(楽譜作成、要点説明)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	課題曲(パートごとに分かれたアンサンブル理解①)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
8		演習	課題曲(パートごとに分かれたアンサンブル理解②)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	課題曲(全パート交えてのアンサンブル理解①)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
10		演習	課題曲(全パート交えてのアンサンブル理解②)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	試験課題の整理と対策の検討	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
12		演習	期末試験を見据えての総チェック	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
13		演習	期末試験実施	未達成箇所の復習
14		演習	課題曲発表	未達成箇所の復習
15		演習	後期実施事項の復習	未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Funk Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬 三 田原 佑 一朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	最近のFUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめる。
2		演習	最近のFUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	70年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	70年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	80年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	80年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	80年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
14		演習	80年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのFUNKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Funk Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬 三 田原 佑 一朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
2		演習	90年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
3		演習	90年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
4		演習	90年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
5		演習	90年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
6		演習	90年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
7		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。	
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。	
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。	
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。	
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。	
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。	
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。	
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成	
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのFUNKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Soul & Pops Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	加藤 エレ ナ 田原 佑 一朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらい。楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	最近のSoulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめる。
2		演習	最近のSoulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	70年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	70年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	80年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	80年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	80年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
14		演習	80年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのSOUL、POPSスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Soul & Pops Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	加藤 エレ ナ 田原 佑 一朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらおう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
2		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
3		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
4		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
5		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
6		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
7		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。	
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。	
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。	
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。	
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。	
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。	
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。	
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成	
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのSOUL、POPSスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Rock Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	潤 豊 大渡 亮
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
方法と基準	実技による採点100%						

授業 計画・ 内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめる。		
2		演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
3		演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
4		演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
5		演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
6		演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
7		演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
8		演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
9		演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
10		演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
11		演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
12		演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
13		演習	80年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
14		演習	80年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習		1~14をまとめてレポート作成		
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。				
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	Rock Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	潤 豊 大渡 亮
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
2		演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	R&B Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	國末 慶宏 前田 逸平
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらい。楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	最近のR&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめる。
2		演習	最近のR&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	70年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	70年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	80年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	80年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	80年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
14		演習	80年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのR&Bスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	R&B Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	國末 慶宏 前田 逸平
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらい。楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
2		演習	90年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
3		演習	90年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
4		演習	90年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
5		演習	90年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
6		演習	90年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
7		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。	
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。	
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。	
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。	
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。	
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。	
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。	
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成	
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのR&Bスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Protools 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大貫 和 紀
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	作曲、レコーディングで必要となるProToolsの使用方法を学ぶ						
到達目標	自在にオーディオデータやMIDIデータを編集できるようになり、レコーディングの技術・知識を学ぶ						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	ProToolsについての使用目的、実例を紹介・学生へのヒアリング	DAWヒアリングシートへの記入を行い、事前準備する
2		講義	ProToolsの基本操作1(MIDIについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
3		講義	ProToolsの基本操作2(MIDIについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
4		講義	ProToolsの基本操作3(MIDIについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
5		講義	ProToolsの基本操作4(MIDIについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
6		講義	ProToolsの基本操作5(MIDIについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
7		講義	ProToolsの基本操作6(MIDIについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
8		講義	ProToolsの基本操作7(MIDIについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
9		講義	ProToolsの基本操作8(MIDIについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
10		講義	ProToolsの基本操作9(MIDIについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
11		講義	ProToolsの基本操作10(MIDIについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
12		講義	ProToolsの基本操作11(MIDIについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
13		講義	ProToolsの基本操作12(MIDIについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
14		講義	ProToolsの基本操作13(MIDIについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
15		講義	試験	試験前にこれまでの基本操作を振り返る
準備学習 時間外学習			授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Protools 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大貫 和 紀
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	作曲、レコーディングで必要となるProToolsの使用方法を学ぶ						
到達目標	自在にオーディオデータやMIDIデータを編集できるようになり、レコーディングの技術・知識を学ぶ						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	ProToolsについてのオーディオ編集の目的、実例を紹介・学生へのヒアリング	DAWヒアリングシート(後期)への記入を行い、事前準備する
2		講義	ProToolsの基本操作1(オーディオ編集について)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
3		講義	ProToolsの基本操作2(オーディオ編集について)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
4		講義	ProToolsの基本操作3(オーディオ編集について)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
5		講義	ProToolsの基本操作4(オーディオ編集について)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
6		講義	ProToolsの基本操作5(オーディオ編集について)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
7		講義	ProToolsの基本操作6(オーディオ編集について)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
8		講義	ProToolsの基本操作1(レコーディング・ミックス・トラックダウンについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
9		講義	ProToolsの基本操作2(レコーディング・ミックス・トラックダウンについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
10		講義	ProToolsの基本操作3(レコーディング・ミックス・トラックダウンについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
11		講義	ProToolsの基本操作4(レコーディング・ミックス・トラックダウンについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
12		講義	ProToolsの基本操作5(レコーディング・ミックス・トラックダウンについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
13		講義	ProToolsの基本操作6(レコーディング・ミックス・トラックダウンについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
14		講義	ProToolsの基本操作7(レコーディング・ミックス・トラックダウンについて)	授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う
15		講義	試験	試験前にこれまでの基本操作を振り返る
準備学習 時間外学習			授業外に事前学習としてProToolsをPCで使用し、授業の復習・予習を行う	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-3 (Vocal Training 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	三浦 伶美
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
9		演習	高度な歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
10		演習	高度な歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
11		演習	高度な歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
15		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いましたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-3 (Gt harmonic concept 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 大志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 ハーモニックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 ギターを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	コードアルペジオ:メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:メジャー編を復習する。
2		演習	コードアルペジオ:メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:メジャー編を復習する。
3		演習	コードアルペジオ:マイナー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:マイナー編を復習する。
4		演習	コードネーム理解方を理解し演奏する。	コードネーム理解方を理解し演奏する。
5		演習	キーの概念を理解し演奏する。	キーの概念を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを理解し演奏する。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	コード進行の解釈を理解し演奏する。	コード進行の解釈を復習する。
8		演習	リズムパターンを理解し演奏する。	リズムパターンを復習する。
9		演習	シャッフルについてを理解し演奏する。	シャッフルについてを復習する。
10		演習	ブルースについてを理解し演奏する。	ブルースについてを復習する。
11		演習	ペンタトニックスケールを理解し演奏する。	ペンタトニックスケールを復習する。
12		演習	ブルーススケールに理解し演奏する。	ブルーススケールを復習する。
13		演習	ブルースセッションを理解し演奏する。	ブルースセッションを復習する。
14		演習	モーダルとコーダルを理解し演奏する。	モーダルとコーダルを復習する。
15		演習	自由演奏を理解し演奏する。	自由演奏を復習する。
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容の復習と教材の音源を使った練習をしっかりと行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-3 (Ba bassline concept 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	現代音楽を弾くためのリズムやベースパートの成り立ちが主な内容で、その種類と手法を紹介し、体感することをテーマとする。前期で体得した4分、8分、16分の音符、を使用した楽曲で使用できる技術を習得し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダード・ミディ・ファイルを使用し、授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	音符の長さや、記号、曲調を楽譜から情報を読み取ったうえで実際にはない装飾音符などを自在に演奏することを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	シャッフルビートのリズム的な捉え方とジャンルとの関係について説明する。(エクササイズ)		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	トリプレットフィルのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	トリプレットフィルのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		講義	ハマーオンとブルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		演習	ハマーオンとブルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
6		講義	スライドダウン、スライドアップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	スライドダウン、アップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
8		講義	16ビートにおけるシンコペーションパターンについて説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
10		講義	バウンス・ビートのリズム的な捉え方と基本的なパターンを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	バウンス・ビートの基本的なパターンを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
12		講義	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
13		演習	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
14		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ装飾音符や音楽記号を用いて演奏する		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
15		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ装飾音符や音楽記号を用いて演奏する		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression A-3 (Dr control Theory 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	星山 哲 也
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	現代音楽における初歩的なスタンダードグルーヴの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。テキストに沿った各種トレーニングと並行して、アンサンブルスタンス、パルスイメージ、サウンドスケープ、リズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	ワールドスタンダードなシンプルナリズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	トリプレットフィールの習得。3連符を構成要素とするリズムの理解と実践。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~3)
2		演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
3		演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
4		演習	ハネた16ビートの実践。キックパターンのバリエーションによるフィールの構築	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~3)
5		演習	6連符に包括されたハネ系16ビートの実践。ゴーストノートのコントロール。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
6		演習	ハネ方の度合いに関する考察。バウンスポイントの把握とハネ率の実践。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~2)
7		演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter20)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(8ビート)
8		演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter21)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(8ビート)
9		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter22)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
10		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter23)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
11		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter24)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
12		演習	シャッフルビートの実践。課題曲(Chapter25)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(シャッフル)
13		演習	1年次のまとめ。蓄積したテクニックと表現力についての考察。	振り返りとしての総復習
14		演習	ハネた16ビートを複雑化した応用パターンの解析と理解。	テキストに基づいた基礎リズムの発展系の理解・練習
15		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	1年次のまとめから応用させたフレーズの創造
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-3 (Key playing technique 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆 志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。 オシレーターなどをうまく使い思い通りのサウンドを作る。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 キーボードを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	シールドなど機材での音の変化を理解する。	シールドなど機材での音の変化を理解し復習。
2		演習	コードの展開の変化を理解する。	コードの展開を理解し復習。
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesの変化を理解する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し復習。
4		演習	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色の変化を理解する。	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色を理解し復習。
5		演習	ペントニック、オブリガートの変化を理解する。	ペントニック、オブリガートを理解し復習。
6		演習	Bluesについての変化を理解する。	Bluesについてを理解し復習。
7		講義	メジャー、マイナー以外のスケール1の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し復習。
8		講義	メジャー、マイナー以外のスケール2の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し復習。
9		講義	ソロの構成の変化を理解する。	ソロの構成を理解し復習。
10		演習	各ジャンルでのバックングの変化を理解する。	各ジャンルでのバックングを理解し復習。
11		演習	各ジャンルでのriffの変化を理解する。	各ジャンルでのriffを理解し復習。
12		演習	ピッチベンドを使用したソロの変化を理解する。	ピッチベンドを使用したソロを理解し復習。
13		講義	エフェクト紹介1の変化を理解する。	エフェクト紹介1を理解し復習。
14		講義	エフェクト紹介2の変化を理解する。	エフェクト紹介2を理解し復習。
15		演習	後期の重要ポイントと復習	後期の重要ポイントと復習を理解し復習。
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-4 (Vocal Training 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	三浦 伶美
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
9		演習	高度な歌唱歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
10		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
11		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
12		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
13		演習	高度な歌唱アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	高度な歌唱アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
15		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いましたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-4 (Gt harmonic concept 4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 大志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	ギターの基礎知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する	
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナー・メジャーペンタニック) スケールを基にしたフレーズについて復習する	
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (メジャースケール) スケールを基にしたフレーズについて復習する	
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナースケール) スケールを基にしたフレーズについて復習する	
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (インターバル) スケールを基にしたフレーズについて復習する	
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する	
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる (コードストローク、ソロ)	16ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する	
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する	
9		演習	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する	
10		演習	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について演奏できる	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について復習する	
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する	
12		演習	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する	
13		演習	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について復習する	
14		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックニクとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニックニクとコードアルペジオの関係性について)について復習 する	
15		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックニクとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニックニクとコードアルペジオの関係性について)について復習 する	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容の復習と教材の音源を使った練習をしっかりと行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression A-4 (Ba bassline concept 4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。						
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する
3		演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する
4		演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する
5		演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する
6		演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する
7		演習	ペンタニックコードについて演奏できる	ペンタニックコードについて復習する
8		演習	音符の長さについて演奏できる	音符の長さについて復習する
9		演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる
10		演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる
11		演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる
12		演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる
13		演習	メジャー・マイナースケールについて演奏できる	メジャー・マイナースケールについて演奏できる
14		演習	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる
15		演習	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-4 (Dr control Theory 4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	星山 哲 也
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)演奏できる	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する	
2		演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する、	
3		演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する、	
4		演習	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を説明できる	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を復習する、	
5		演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する、	
6		演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する、	
7		演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する、	
8		演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する、	
9		演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、	
10		演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、	
11		演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する、	
12		演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する、	
13		演習	シンコペーションを習得し演奏できる	シンコペーションを習得し演奏を復習する、	
14		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、	
15		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、	
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルや演奏技術の向上を目指し反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression A-4 (Key playing technique 4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆 志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	キーボードについての基礎知識 (演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する	
2		演習	楽譜の読み方 ト音を説明できる。	楽譜の読み方 ト音を復習する。	
3		演習	楽譜の読み方 ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方 ヘ音を復習する	
4		演習	楽譜の書き方 音符を説明できる。	楽譜の書き方 音符を復習する。	
5		演習	楽譜の書き方 記号を説明できる。	楽譜の書き方 記号を復習する。	
6		演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。	
7		演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。	
8		演習	コードアレンジ(和音の積み方)学び演奏できる。	コードアレンジ(和音の積み方)を復習する。	
9		演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。	
10		演習	オシレーターの説明学び演奏できる。	オシレーターの説明を復習する。	
11		演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。	
12		演習	コードトーン(メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。(メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	
13		演習	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	主要四和音を復習する。 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	
14		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析演奏を復習する。 (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	
15		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression B-3 (Vocal Leading 5)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田原 佑 一朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	イヤートレーニング2を理解し説明できる。		授業概要の説明とイヤートレーニング2の復習レポート作成
2		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。		実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
3		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。		実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
4		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。		実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
5		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。		実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
6		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。		実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
7		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。		実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。		中間試験及び中間課題準備
9		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ミクソリディアンを理解し説明できる。		モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ミクソリディアン復習レポート作成
10		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：リディアンを理解し説明できる。		モード(ダイアトニック・コード・スケール)：リディアン復習レポート作成
11		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ドリアンを理解し説明できる。		モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ドリアン復習レポート作成
12		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：フリジアンを理解し説明できる。		モード(ダイアトニック・コード・スケール)：フリジアンの復習レポート作成
13		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ロクリアンを理解し説明できる。		モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ロクリアンの復習レポート作成
14		講義	ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)を理解し説明できる。		ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)の復習レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。		学期末課題の発表・提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression B-3 (Gt melodic concept 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 大志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	ギターの基礎知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)	ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナー・メジャーペンタトニック)	スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (メジャースケール)	スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナースケール)	スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (インターバル)	スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)	について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる (コードストローク、ソロ)	16ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)	について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する	
9		演習	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)	について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について演奏できる	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)	について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する	
12		演習	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する	
13		演習	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について復習する	
14		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)	について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)	について復習する
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容の復習と教材の音源を使った練習をしっかりと行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression B-3 (Ba groove analyze 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬 三
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。						
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ベースについての基礎知識 (演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する	
2		演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する	
3		演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する	
4		演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する	
5		演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する	
6		演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する	
7		演習	ペントニックコードについて演奏できる	ペントニックコードについて復習する	
8		演習	音符の長さについて演奏できる	音符の長さについて復習する	
9		演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる	
10		演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	
11		演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	
12		演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる	
13		演習	メジャー・マイナースケールについて演奏できる	メジャー・マイナースケールについて演奏できる	
14		演習	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	
15		演習	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression B-3 (Dr groove making 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	奥 出矢
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ドラムについての基礎知識 (演奏フォームや様々な奏法について)	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)	ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する、	
3		演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する、	
4		演習	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を説明できる	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を復習する、	
5		演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する、	
6		演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する、	
7		演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する、	
8		演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する、	
9		演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、	
10		演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、	
11		演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する、	
12		演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する、	
13		演習	シンコペーションを習得し演奏できる	シンコペーションを習得し演奏を復習する、	
14		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、	
15		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、	
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression B-3 (Key harmonic concept 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	織原 洋子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	キーボードについての基礎知識 (演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する	
2		演習	楽譜の読み方 ト音を説明できる。	楽譜の読み方 ト音を復習する。	
3		演習	楽譜の読み方 ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方 ヘ音を復習する	
4		演習	楽譜の書き方 音符を説明できる。	楽譜の書き方 音符を復習する。	
5		演習	楽譜の書き方 記号を説明できる。	楽譜の書き方 記号を復習する。	
6		演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。	
7		演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。	
8		演習	コードアレンジ(和音の積み方)学び演奏できる。	コードアレンジ(和音の積み方)を復習する。	
9		演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。	
10		演習	オシレーターの説明学び演奏できる。	オシレーターの説明を復習する。	
11		演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。	
12		演習	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。 (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	
13		演習	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	主要四和音を復習する。 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	
14		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析演奏を復習する。 (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	
15		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression B-4 (Vocal Leading 7)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田原 佑 一郎
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	イヤートレーニング3を復習理解し説明ができる	イヤートレーニング3の復習	確認レポート作成
2		講義	ペンタトニック・スケール(メジャー、マイナー)理解し説明ができる	ペンタトニック・スケール(メジャー、マイナー)の復習	確認レポート作成
3		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール	確認レポート作成
4		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール	確認レポート作成
5		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール	確認レポート作成
6		講義	クロマチック・スケールとスケール・モードの習得し理解し説明ができる	クロマチック・スケールとスケール・モードの復習	確認レポート作成
7		講義	クロマチック・アプローチを含むメロディー習得し理解し説明ができる	クロマチック・アプローチを含むメロディー	確認レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験、中間課題	準備
9		講義	転調について実践習得し理解し説明ができる	転調について実践	確認レポート作成
10		講義	転調を含むメロディーを作って習得し理解し説明ができる	転調を含むメロディー	確認レポート作成
11		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー	確認レポート作成
12		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー	確認レポート作成
13		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー	確認レポート作成
14		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー	確認レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。	
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression B-4 (Gt melodic concept 4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 大志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 ハーモニックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技をさらに実践的なものに。作曲等も含めてプロミュージシャンとしての礎を築く。 現場に出た際に必要な楽譜読みや、演奏技術、知識を得ることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	前期のおさらい		前期のおさらい
2		演習	マイナースケール		マイナースケール
3		演習	ハーモニックマイナースケール		ハーモニックマイナースケール
4		演習	ハーモニックマイナーパーフェクトフィフスビロウ		ハーモニックマイナーパーフェクトフィフスビロウ
5		演習	メロディックマイナー		メロディックマイナー
6		演習	スパニッシュスケール		スパニッシュスケール
7		演習	スパニッシュジブシースケール		スパニッシュジブシースケール
8		演習	ジブシースケール		ジブシースケール
9		演習	アドリブ：モーダル		アドリブ：モーダル
10		演習	アドリブ：コードル		アドリブ：コードル
11		演習	アドリブ：コードの分解		アドリブ：コードの分解
12		演習	ハーモニックメソッド		ハーモニックメソッド
13		演習	メロディックメソッド		メロディックメソッド
14		演習	リズムメソッド		リズムメソッド
15		演習	自由演奏		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression B-4 (Ba groove analyze 4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬 三
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	現代音楽におけるリズム、音色、各パートの成り立ちの抽出が主な内容で、その種類と手法、また発展や大元を体感することをテーマとする。ジャンルの違いを把握し表現をするためにビートの感じ方に関する段階的なメニューを消化し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダードミディ・ファイルを使用し授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	各ジャンルにおける歴史や背景を把握し過去と現代の各ジャンルの違いや価値観を理解することを目標とする。自身がそのジャンルの音楽に適切だと思うフレーズを選択できることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
2		講義	リズム&ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	リズム&ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
3		演習	リズム&ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	リズム&ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
4		講義	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
5		演習	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
6		講義	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
7		演習	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
8		講義	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
9		演習	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
10		講義	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
11		演習	近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
12		講義	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
13		演習	フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
14		講義	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	
15		演習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。	
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression B-4 (Dr groove making 4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	奥 出矢
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	現代音楽で頻出する難易度の高いリズムの抽出と分析が主な内容となる。幾つかの代表的な奏法を実践し、特化した技術、知識を学ぶ。ラテン音楽やジャズにも触れ総合的に音楽の理解を深めていく。						
到達目標	世界共通のリズムを習得する事を目的とし、各種練習の消化や自発的研究活動の延長線上において、様々な音楽ジャンルの要素を昇華して主体的にリズムの構築が出来る能力を身につける事を目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	スウィング奏法(4ビート)の習得と基礎理解	スウィング奏法(4ビート)の習得と基礎理解
2		演習	スウィング奏法(4ビート)の習得と4種類のリズムの組み合わせのトレーニング	スウィング奏法(4ビート)の習得と4種類のリズムの組み合わせのトレーニング
3		演習	スウィング奏法(4ビート)の習得。手足の連動性が複雑化した応用	スウィング奏法(4ビート)の習得。手足の連動性が複雑化した応用
4		演習	モータウンの歴史的背景、代表曲からのグルーブ抽出	モータウンの歴史的背景、代表曲からのグルーブ抽出
5		演習	スネア、スリップが特徴的なファンクスタイルの実践	スネア、スリップが特徴的なファンクスタイルの実践
6		演習	ニューオリンズ系の3:2型リズムを活かしたビートの実践	ニューオリンズ系の3:2型リズムを活かしたビートの実践
7		演習	シンコペーション色が強いファンクスタイルの実践	シンコペーション色が強いファンクスタイルの実践
8		演習	JB系のファンク - Chapter55 (テキスト)	JB系のファンク - Chapter55 (テキスト)
9		演習	セカンドライン・フィールのロック - Chapter56	セカンドライン・フィールのロック - Chapter56
10		演習	ストレート・フィールのファンク - Chapter57	ストレート・フィールのファンク - Chapter57
11		演習	バウンス・フィールのファンク - Chapter58	バウンス・フィールのファンク - Chapter58
12		演習	6/8フィールのファンク・ロック - Chapter59	6/8フィールのファンク・ロック - Chapter59
13		演習	ラテン・フィールのファンク - Chapter60	ラテン・フィールのファンク - Chapter60
14		演習	ファンク・セカンドラインフィール・ストレートフィールを織り交ぜた応用	ファンク・セカンドラインフィール・ストレートフィールを織り交ぜた応用
15		演習	バウンス・フィール・6/8フィールラテン・フィールのファンクを織り交ぜた応用	バウンス・フィール・6/8フィールラテン・フィールのファンクを織り交ぜた応用
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-4 (Key harmonic concept 4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	織原 洋子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	1年時、2年前期に習得した実技や理論をさらに発展させて現場でも使えるようにしていく。より複雑なコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。						
到達目標	理論、実技をさらに実践的なものに。作曲等も含めてプロミュージシャンとしての礎を築く。現場に出た際に必要な楽譜読みや、演奏技術、知識を得ることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	循環コードの説明4-5-6-3	循環コードの説明4-5-6-3
2		演習	前週からのテンションノート1	前週からのテンションノート1
3		演習	テンションノート2	テンションノート2
4		演習	Walking Bassを交えたアルペジオ奏法	Walking Bassを交えたアルペジオ奏法
5		演習	ペントニック、リフ	ペントニック、リフ
6		演習	Rock でのriff	Rock でのriff
7		演習	ブルースのコード進行	ブルースのコード進行
8		講義	テンションノートを使用したソロワーク	テンションノートを使用したソロワーク
9		講義	楽譜の読み方 (現場へ出るための再確認)	楽譜の読み方 (現場へ出るための再確認)
10		演習	オンコードの説明	オンコードの説明
11		演習	ディミニッシュ、オーギュメントの説明	ディミニッシュ、オーギュメントの説明
12		演習	ロクリアンの説明	ロクリアンの説明
13		講義	エフェクト紹介1	エフェクト紹介1
14		講義	エフェクト紹介2	エフェクト紹介2
15		演習	後期の重要ポイントと復習	後期の重要ポイントと復習
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-3 (Vocal Leading 6)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田原 佑 一朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	イヤートレーニング2を理解し説明できる。		授業概要の説明とイヤートレーニング2の復習レポート作成
2		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。		実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
3		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。		実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
4		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。		実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
5		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。		実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
6		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。		実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
7		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。		実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。		中間試験及び中間課題準備
9		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ミクソリディアンを理解し説明できる。		モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ミクソリディアンの復習レポート作成
10		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：リディアンを理解し説明できる。		モード(ダイアトニック・コード・スケール)：リディアンの復習レポート作成
11		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ドリアンを理解し説明できる。		モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ドリアンの復習レポート作成
12		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：フリジアンを理解し説明できる。		モード(ダイアトニック・コード・スケール)：フリジアンの復習レポート作成
13		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ロクリアンを理解し説明できる。		モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ロクリアンの復習レポート作成
14		講義	ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)を理解し説明できる。		ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)の復習レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。		学期末課題の発表・提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C-3 (Gt chord work 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 大志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがリベーストだけにはない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	もとの調のドミナント→転調後のドミナント 転調の種類	もとの調のドミナント→転調後のドミナント 転調の種類
2		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
3		演習	同主調への転調(短3度、長6度)	同主調への転調(短3度、長6度)
4		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
5		講義	属調、下属調への転調(完全4度、完全5度)①	属調、下属調への転調(完全4度、完全5度)①
6		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
7		講義	属調、下属調への転調(完全4度、完全5度)②	属調、下属調への転調(完全4度、完全5度)②
8		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
9		講義	M7コードの説明	M7コードの説明
10		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
11		講義	7コードの説明	7コードの説明
12		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
13		講義	前期に学んだ理論を楽器を使い行う。	前期に学んだ理論を楽器を使い行う。
14		講義	前期項目の復習	前期項目の復習
15		講義	期末テスト実施と復習	期末テスト実施
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-3 (Ba chord work 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬 三
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがリベーシストだけにはない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
2		講義	リズム&ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	リズム&ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
3		演習	リズム&ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	リズム&ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
4		講義	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
5		演習	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
6		講義	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
7		演習	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
8		講義	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
9		演習	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
10		講義	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
11		演習	近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
12		講義	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
13		演習	フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
14		講義	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	
15		演習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽と復習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。	
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C-3 (Percussion 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大久保 宙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	パーカッションの基礎を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグルーブに対する発見が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽器構造と特有な記譜法の理解。	楽器構造と特有な記譜法の理解。
2		演習	メトロノームを使用した練習の紹介。	メトロノームを使用した練習の紹介。
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。
4		演習	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。
5		演習	ゴーストモーションに関する考察。	ゴーストモーションに関する考察。
6		演習	フィルインに関する考察。	フィルインに関する考察。
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。
8		演習	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践。	リズム構造の理解とフィールの実践。
13		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用
14		試験	学期末試験実施	学期末試験実施
15		演習	前期実施項目の復習と復習	未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-3 (Key chord work 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	織原 洋子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがリベシストだけにはない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽器構造と特有な記譜法の理解。	楽器構造と特有な記譜法の理解。
2		演習	メトロノームを使用した練習の紹介。	メトロノームを使用した練習の紹介。
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。
4		演習	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。
5		演習	ゴーストモーションに関する考察。	ゴーストモーションに関する考察。
6		演習	フィルインに関する考察。	フィルインに関する考察。
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。
8		演習	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。
11		演習	マイナスワンプ音源を使用したトレーニングの実施	マイナスワンプ音源を使用したトレーニングの実施
12		演習	リズム構造の理解とフィルの実践。	リズム構造の理解とフィルの実践。
13		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用
14		試験	学期末試験実施	学期末試験実施
15		テスト	期末テスト実施と復習	未理解箇所の説明
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-4 (Vocal Leading 8)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田原 佑 一郎
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	イヤートレーニング3を復習理解し説明ができる	イヤートレーニング3の復習	確認レポート作成
2		講義	ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）理解し説明ができる	ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）の復習	確認レポート作成
3		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール	確認レポート作成
4		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール	確認レポート作成
5		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール	確認レポート作成
6		講義	クロマチック・スケールとスケール・モードの習得し理解し説明ができる	クロマチック・スケールとスケール・モードの復習	確認レポート作成
7		講義	クロマチック・アプローチを含むメロディー習得し理解し説明ができる	クロマチック・アプローチを含むメロディー	確認レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験、中間課題	準備
9		講義	転調について実践習得し理解し説明ができる	転調について実践	確認レポート作成
10		講義	転調を含むメロディーを作って習得し理解し説明ができる	転調を含むメロディー	確認レポート作成
11		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー	確認レポート作成
12		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー	確認レポート作成
13		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー	確認レポート作成
14		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー	確認レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。	
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C-4 (Gt chord work 4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 大志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがリベシストだけではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)	ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナー・メジャーペンタトニック)	スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (メジャースケール)	スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナースケール)	スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (インターバル)	スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する	
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる (コードストローク、ソロ)	16ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する	
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する	
9		演習	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する	
10		演習	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について演奏できる	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について復習する	
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する	
12		演習	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する	
13		演習	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について復習する	
14		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)について復習する	
15		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)について復習する	
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C-4 (Ba chord work 4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬 三
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがリベシストだけではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)	ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナー・メジャーペンタトニック)	スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (メジャースケール)	スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナースケール)	スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (インターバル)	スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する	
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる (コードストローク、ソロ)	16ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する	
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する	
9		演習	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する	
10		演習	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について演奏できる	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について復習する	
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する	
12		演習	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する	
13		演習	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について復習する	
14		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)について復習する	
15		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)について復習する	
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C-4 (Percussion 4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大久保 宙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。 役割(アンサンブルスタンス)を理解する。						
到達目標	前期のシンプルなりズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーブに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)		ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる		演奏における音楽理論(マイナー・メジャーペンタトニック)スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる		演奏における音楽理論(メジャースケール)スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる		演奏における音楽理論(マイナースケール)スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		講義	演奏における音楽理論について演奏できる		演奏における音楽理論(インターバル)スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		講義	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる		8ビート主体の曲に対するアプローチ(コードストローク、ソロ)について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる(コードストローク、ソロ)		16ビート主体の曲に対するアプローチ(コードストローク、ソロ)について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について演奏できる。		シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる		シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について演奏できる		ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる		楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン(メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる		コードトーン(メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる		主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)		コード進行の解析 (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)		コード進行の解析 (ダイアトニックニックとコードアルペジオの関係性について)について復習する
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C-4 (Key chord work 4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	織原 洋子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがリベシストだけにはない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽器構造と特有な記譜法の理解。	楽器構造と特有な記譜法の理解。
2		演習	メトロノームを使用した練習の紹介。	メトロノームを使用した練習の紹介。
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。
4		演習	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。
5		演習	ゴーストモーションに関する考察。	ゴーストモーションに関する考察。
6		演習	フィルインに関する考察。	フィルインに関する考察。
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。
8		演習	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践。	リズム構造の理解とフィールの実践。
13		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用
14		試験	学期末試験実施	学期末試験実施
15		テスト	期末テスト実施と復習	未理解箇所の説明
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	J-POP Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井 康行 宇田 隆志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、J-POPの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではJ-POP音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なJ-POP音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	J-POPの特徴を理解し実践する。	J-POPの特徴を理解し実演する
2		演習	J-POPの特徴を理解しアンサンブルで実践する。	J-POPの特徴を理解し実演する
3		演習	ネオアコースティックを用いて表現する。	ネオアコースティックを理解し実演する
4		演習	ネオアコースティックのアンサンブルを実践できる。	ネオアコースティックを理解し実演する
5		演習	90年代POPSを用いてアレンジを研究し実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
6		演習	90年代POPSを用いてアンサンブルを学び実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
7		演習	80年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
8		演習	80年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
9		演習	70年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
10		演習	70年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
11		演習	70年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	70年代のアレンジの特徴を理解し実演する
12		演習	80年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	80年代のアレンジの特徴を理解し実演する
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を理解し実演する
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを理解し実演する
15		演習	テスト	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			業界で活躍するJ-POPアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	J-POP Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井 康行 宇田 隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、J-POPの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではJ-POP音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なJ-POP音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し説明ができる。	シンガーソングライターの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	J-POPバラードを分析し演奏できる。	J-POPバラードを分析し実演する。
10		演習	J-POPバラードをアンサンブルで演奏できる。	J-POPバラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	テスト	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習		業界で活躍するJ-POPアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				

科目名	セッションアレンジゼミ 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	村田 隆 行
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	鳴瀬喜博・IKUO・村田、3人のベーシストによるユニット「THE CHOPPERS REVOLUTION」を結成し、キングレコード、徳間JAPANより2枚のフル・アルバムとライブDVDを発表。						
授業の学習 内容	<p>①「BANDアンサンブルをテーマに、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」</p> <p>②「各パートの授業、理論の実践の場。」</p> <p>③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。(アンサンブル力・楽器演奏力)この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」</p> <p>①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどのようなアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。</p>						
到達目標	<p>①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。</p> <p>②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。</p> <p>③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来るようになる。</p>						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	この授業の説明とチームの振り分け	共有された課題曲を事前に全曲聞く
2		演習	課題曲①を使っのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使っのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
7		演習	課題曲を使っのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		講義	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
9		講義	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジ	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
12		演習	課題曲を使っのアンサンブル③(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使っのアンサンブル④(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
14		講義	前期項目の総復習	前期未達成項目の復習
15		テスト	期末テスト実施と復習	前期未達成項目の復習
準備学習 時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セッションアレンジゼミ 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	村田 隆 行
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	鳴瀬喜博・IKUO・村田、3人のベーシストによるユニット「THE CHOPPERS REVOLUTION」を結成し、キングレコード、徳間JAPANより2枚のフル・アルバムとライブDVDを発表。						
授業の学習 内容	<p>①「前期よりもリズム、コード感に特化し、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」</p> <p>②「各パートの授業、理論の実践の場。」</p> <p>③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。(アンサンブル力・楽器演奏力)この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」</p> <p>①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。</p>						
到達目標	<p>①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。</p> <p>②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。</p> <p>③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来るようになる。</p>						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	前期の振り返り	後期の予習
2		演習	課題曲①を使っのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使っのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
7		演習	課題曲を使っのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		演習	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
9		演習	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジ	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
12		演習	課題曲を使っのアンサンブル③(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使っのアンサンブル④(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
14		講義	後期項目の総復習	後期未達成項目の復習
15		テスト	期末テスト実施と復習	後期未達成項目の復習
準備学習 時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				